

《人づくり分野》

生涯学習部

2020年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。町田市固有の文化財・歴史資料の保護・管理等に努め、それらに触れる機会の提供・情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。	他自治体等	◆2020年度において東京都内では、9つの自治体（港区、豊島区、練馬区、江戸川区、昭島市、小平市、多摩市、西東京市、瑞穂町）が地域歴史資料のデジタルアーカイブを公開していますが、このなかで町田デジタルミュージアムの掲載量は最大になる見込みです。
所管事務	◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関すること ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関すること ◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関すること ◆文化財の保護、調査及び収集等に関すること ◆考古資料室に関すること		

2.2019年度末の総括

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇自由民権資料館及び町田市生涯学習センターの役割や事業を整理し、効率的・効果的な管理運営手法について検討する必要があります。

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回ったときに事業への影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。

◇町田デジタルミュージアムの構築では、誰が見ても分かりやすい資料の掲載方法や、掲載資料の実物を見学したいという要望に応えるための新たな公開方法等について検討する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇自由民権資料館及び町田市生涯学習センターのあり方見直し検討を行います。

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回った場合でも、公開・活用ができる範囲を広げられるよう事業計画を検討します。

◇町田デジタルミュージアムの構築では、市民へ町田の歴史をわかりやすく発信するため、町田の通史を再検証します。また、掲載する資料の実物に触れる機会をつくるなど、考古・歴史・民俗資料を積極的に公開・活用します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	回	目標	-	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	7	6	6			
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	遺跡整備完了	国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡（牟場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡）整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備		(2026年度)	
考古資料室の見学者数	人	目標	4,850	8,440	4,800	11,330	-	考古資料室及びアウトリーチ展示年間見学者数
		実績	6,418	7,162	11,573			

◆2020年7月に町田市生涯学習審議会へ「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」を諮問し、2020年11月に答申を受けました。

◆高ヶ坂石器時代遺跡については、八幡平遺跡の整備工事（階段、スロープ、解説板、石柱移設等）を実施し、2021年4月から一般公開をできるようにしました。また、2018年度に取得した牟場遺跡内の史跡用地の設計を行いました。

◆町田デジタルミュージアムの構築については、考古資料の撮影・デジタル化を完了して、その成果をホームページで公開し、アクセス数は8,072件でした。

◆考古資料の収蔵資料を活用したアウトリーチ展示は、ふれあい桜館（高齢者福祉センター）と町田ツーリストギャラリーの2件を実施しました。アウトリーチ展示の開催場所を変更したこと及び考古資料室の展示内容を工夫したことにより、見学者数は4,411人（62%）増加し、11,573人となりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	96,654	109,352	104,003	△ 5,349	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	1,135	1,979	968	△ 1,011	保険料	0	0	0	0
物件費	15,647	19,280	30,323	11,043	国庫支出金	69,302	15,823	8,553	△ 7,270
うち委託料	14,821	17,890	29,531	11,641	都支支出金	12,168	8,360	4,777	△ 3,583
維持補修費	14,785	16,779	16,847	68	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	474	477	481	4
補助費等	1,273	4,274	3,279	△ 995	その他	50	1,503	10,194	8,691
減価償却費	10,313	10,775	7,329	△ 3,446	行政収入 小計(a)	81,994	26,163	24,005	△ 2,158
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 68,325	△ 160,414	△ 149,171	11,243
賞与・退職手当引当金繰入額	11,647	26,117	11,395	△ 14,722	金融収支差額 (d)	△ 222	△ 209	△ 194	15
行政費用 小計 (b)	150,319	186,577	173,176	△ 13,401	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 68,547	△ 160,623	△ 149,365	11,258
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 68,547	△ 160,623	△ 149,365	11,258

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費 100,790千円 文化財保護審議会委員報酬 1,152千円 生涯学習審議会委員報酬 1,089千円 社会教育委員報酬 972千円	決算額の主な内訳	町田デジタルミュージアム構築作業等業務委託料 13,278千円 埋蔵文化財調査委託料 3,352千円、高ヶ坂石器時代遺跡（牟場遺跡）設計業務委託料 2,750千円、高ヶ坂石器時代遺跡整備工事（五期）監理業務委託料 1,705千円、村野常右衛門生家管理及び清掃業務委託料 1,090千円 など
主な増減理由	職員構成の変更等により人件費が5,464千円減少し、時間外が1,011千円減少。町田市生涯学習審議会は、オンラインでの参加者が増えたため生涯学習審議会委員報酬が115千円増加。	主な増減理由	町田デジタルミュージアム構築作業が増えたことにより委託料が11,495千円増加。町田市立博物館資料の受入が完了したことにより産業廃棄物処分委託料が3,218千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	国庫支出金
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事（五期） 15,681千円 小山田1号遺跡表土被膜修繕 964千円 考古資料室クラック修繕 160千円 薬師池公園内給水管漏水修繕 42千円	決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 6,893千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,660千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡の整備工事内容が2019年度と異なることにより整備工事費が348千円減少。文化財の修繕規模が拡大したことにより修繕料が438千円増加。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備では工事規模が縮小したことにより補助金が7,128千円減少。埋蔵文化財調査委託料が減少したことにより補助金が142千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	11,982	11,820	△ 162
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	5,042	5,057	15
					賞与引当金	6,940	6,763	△ 177
固定資産	有形固定資産	848,446	841,579	△ 6,867	その他の流動負債	0	0	0
	土地	708,422	708,422	0	固定負債	139,442	139,253	△ 189
	建物(取得価額)	333,632	333,632	0	地方債	47,138	47,081	△ 57
	建物減価償却累計額	△ 193,608	△ 200,475	△ 6,867	退職手当引当金	92,304	92,172	△ 132
	工作物(取得価額)	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	151,424	151,073	△ 351
	土地	0	0	0	純資産	698,870	691,892	△ 6,978
	工作物(取得価額)	0	0	0				
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	1,848	1,386	△ 462	純資産の部合計	698,870	691,892	△ 6,978	
資産の部合計		850,294	842,965	△ 7,329	負債及び純資産の部合計	850,294	842,965	△ 7,329

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	地方債(固定負債)
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡) 192,014千円 など	決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(半場遺跡)覆屋 27,293千円 など	決算額の主な内訳	教育施設整備事業債(高ヶ坂石器時代遺跡整備事業) 5,000千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により6,867千円減少。	主な増減理由	教育施設整備事業債の借入れにより5,000千円増加。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

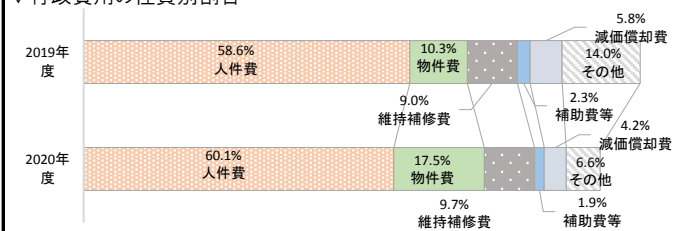
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	24,005	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	5,000
行政サービス活動支出	166,351	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	5,042
行政サービス活動収支差額(a)	△ 142,346	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 42
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 142,388
				一般財源充当調整額	142,388

5.財務構造分析

6.個別分析

▽行政費用の性質別割合

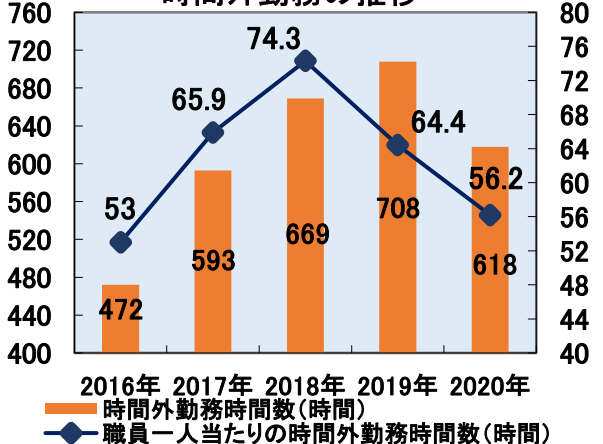


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
生涯学習審議会事務	1.3					1.3	1.0
生涯学習総務課管理事務	4.8			0.1		4.9	5.3
文化財保護事務	4.6		0.9			5.5	5.4
考古資料室管理事務	0.3		0.1			0.4	0.3
2020年度 歳出目 合計	11.0	0.0	1.0	0.1	0.0	12.1	12.0
2019年度 歳出目 合計	11.0	0.0	1.0	0.0	0.0	12.0	

時間外勤務の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆2021年1月に町田市生涯学習審議会へ「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」を諮問しました。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国、都からの補助金交付額が要望額を下回りましたが、整備内容を見直し事業への影響を最小限に抑えました。
- ◆町田デジタルミュージアムの構築では、考古資料の撮影・デジタル化が完了し、その成果をホームページで公開しました。
- ◆考古資料室及びアウトリーチ展示の見学者数を合わせると4,411人(62%)増加し、11,573人となりました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、町田市生涯学習審議会は、オンラインでの参加者が増えたため生涯学習審議会委員報酬が2019年度より137千円増加しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、考古資料室を臨時休室したことにより施設管理委託料が25千円減少しました。
- ◆また、市庁舎イベントスタジオで実施予定だった考古資料のアウトリーチ展示を中止しましたが、実施場所、考古資料室の展示内容を工夫したことにより見学者数が4,411人(62%)増加し、11,573人となりました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市生涯学習センターが、より多くの市民に親しまれ必要とされる施設として継続していくため、目指すべき姿や効率的・効果的な管理運営手法について検討する必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回ったときに事業への影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアムを媒体として新たな考古・歴史・民俗資料の活用方法を検討し、掲載資料を見学できる環境を整える必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2021年度に町田市生涯学習審議会から受ける予定の「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」の答申を踏まえ、見直し検討を行います。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。
◆町田デジタルミュージアム掲載資料を考古資料室と自由民権資料館で見学できる環境を整える他、学校教育での利用促進を検討・実施します。	◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用していただくため、掲載内容の改善・更新を行います。

2020年度 事業別行政評価シート

2020年度 事業別行政評価シート		部 名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型

1.事業概要

事業目的	町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。				
基本情報	根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱			
		2018年度	2019年度	2020年度	
	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	
	町田デジタルミュージアム進捗状況		歴史資料構築・公開	考古資料構築・公開	

2.2019年度末の総括

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回ったときに、事業への影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアム構築では、掲載する資料の実物を見学したいという要望に応えられるよう公開・活用方法を検討する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回った場合でも、公開・活用ができる範囲を少しでも広げられる事業計画を検討します。
- ◆町田デジタルミュージアムに掲載する資料をアウトリーチ展示や考古資料室と自由民権資料館における常設展示などで積極的に公開・活用します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	遺跡整備完了(2026年度)	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牢場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備			
町田デジタルミュージアム構築進捗状況	-	目標	-	歴史資料公開	考古資料公開	構築完了	全面公開	町田デジタルミュージアム構築の進捗状況
		実績	-	歴史資料公開	考古資料公開		(2022年度)	

成果の説明 ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、八幡平遺跡の整備工事(階段、スロープ、解説板、石柱移設等)を実施し、2021年4月から一般公開をできるようにしました。また、2018年度に取得した牢場遺跡内の史跡用地の設計を行いました。

◆町田デジタルミュージアム(※)の構築については、考古資料の撮影・デジタル化を完了して、その成果をホームページで公開し、アクセス数は8,072件でした。

※町田デジタルミュージアムとは、町田市が所蔵する考古・歴史・民俗資料をデジタル化し、インターネット上で閲覧できるようにする仕組みのことです。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
	A	B	B-A			A	B	B-A	
人件費	40,690	46,202	45,088	△ 1,114	地方税	0	0	0	0
物件費	13,467	17,033	28,096	11,063	国庫支出金	69,302	15,823	8,553	△ 7,270
うち委託料	13,293	16,312	27,919	11,607	都支出金	12,168	8,360	4,777	△ 3,583
維持補修費	14,761	16,598	16,688	90	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	470	463	467	4
補助費等	1,248	4,249	3,232	△ 1,017	その他	50	1,503	10,194	8,691
減価償却費	7,618	7,618	4,362	△ 3,256	行政収入 小計(a)	81,990	26,149	23,991	△ 2,158
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 224	△ 76,440	△ 79,185	△ 2,745
賞与・退職手当引当金繰入額	4,430	10,889	5,710	△ 5,179	金融収支差額(d)	△ 222	△ 209	△ 194	15
行政費用 小計(b)	82,214	102,589	103,176	587	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 446	△ 76,649	△ 79,379	△ 2,730
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 446	△ 76,649	△ 79,379	△ 2,730

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費 43,936千円 文化財保護審議会委員報酬 1,152千円	決算額の主な内訳	町田デジタルミュージアム構築作業等業務委託料 13,278千円 埋蔵文化財調査委託料 3,352千円、高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡)設計業務委託料 2,750千円 など
主な増減理由	職員構成の変更等により人件費が1,114千円減少。	主な増減理由	町田デジタルミュージアム構築作業が増えたことにより委託料が11,495千円増加。町田市立博物館資料の受入が完了したことにより産業廃棄物処分委託料が3,218千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	国庫支出金
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(五期) 15,681千円 小山田1号遺跡表土被膜修繕 964千円 薬師池公園内給水管漏水修繕 42千円 など	決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 6,893千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,660千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡の整備工事内容が2019年度と異なることにより整備工事費が348千円減少。文化財の修繕規模が拡大したことにより修繕料が438千円増加。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備では工事規模が縮小したことにより補助金が7,128千円減少。埋蔵文化財調査委託料が減少したことにより補助金が142千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2020				
		2019				
		2018				
		2020				
		2019				
		2018				
		2020				
		2019				
		2018				

④貸借対照表

(単位:千円)

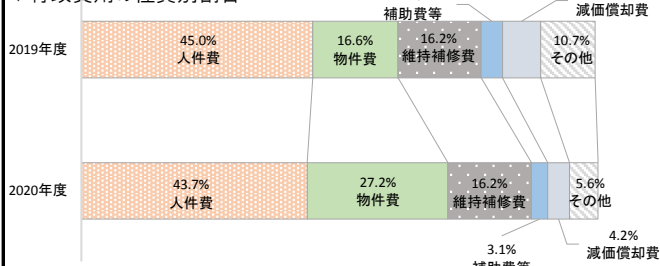
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				7,868	7,878	10
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			5,042	5,057	15
固定資産	有形固定資産			739,736	735,375	△ 4,361	固定負債	賞与引当金			2,826	2,821	△ 5
	土地			653,734	653,734	0		その他の流動負債			0	0	0
	建物(取得価額)			202,490	202,490	0		固定負債			84,721	85,563	842
	建物減価償却累計額			△ 116,488	△ 120,849	△ 4,361		地方債			47,138	47,081	△ 57
	工作物(取得価額)			0	0	0		退職手当引当金			37,583	38,482	899
	工作物減価償却累計額			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
	無形固定資産			0	0	0		繰延収益			0	0	0
	インフラ資産			0	0	0		長期前受金			0	0	0
	建設仮勘定			0	0	0		負債の部合計			92,589	93,441	852
	その他の固定資産			0	0	0		純資産			647,147	641,934	△ 5,213
資産の部合計				739,736	735,375	△ 4,361	負債及び純資産の部合計				739,736	735,375	△ 4,361

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	地方債(固定負債)
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡) 192,014千円 など	決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(半場遺跡)覆屋 27,293千円 など	決算額の主な内訳	教育施設整備事業債(高ヶ坂石器時代遺跡整備事業) 5,000千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により4,361千円減少。	主な増減理由	教育施設整備事業債の借入れにより5,000千円増加。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



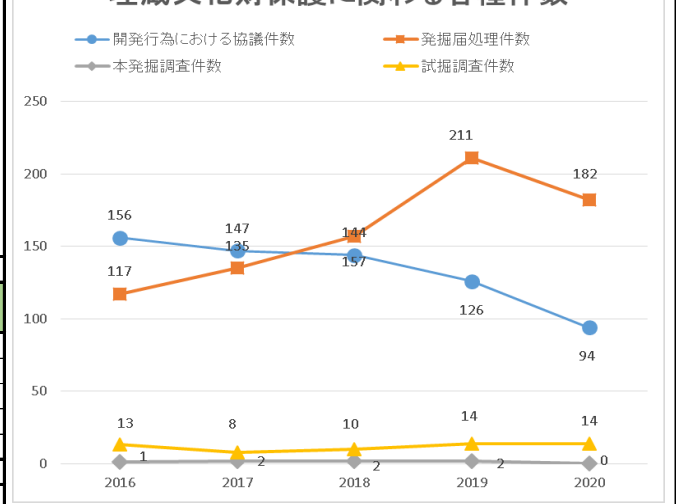
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
内訳	文化財保護審議会事務局事務	0.3					0.3	0.3
	文化財保護事務	1.3					1.3	1.1
	文化財整備保存事業	0.9					0.9	0.9
	埋蔵文化財保護事業	0.9		0.6			1.5	1.5
	文化財普及事業	1.2		0.3			1.5	1.6
2020年度 特定事業 合計		4.6	0.0	0.9	0.0	0.0	5.5	5.4
2019年度 特定事業 合計		4.5	0.0	0.9	0.0	0.0	5.4	

6.個別分析

埋蔵文化財保護に関わる各種件数



7.総括

①成果および財務の分析

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、事業内容によって年度ごとの行政費用が大きく変動します。また、国、都から補助(対象経費の75%)を受けていますが、2020年度は補助金の交付額が要望額を下回りました。しかし、整備内容を見直すことで2021年4月から八幡平遺跡の一般公開をできるようにしました。

◆町田デジタルミュージアムの構築では、最も掲載量が多い考古資料の撮影・デジタル化が完了し、その成果をホームページで公開したことによりアクセス数は8,072件となりました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、無形民俗文化財の保護育成団体が活動を自粛したため、町田市無形民俗文化財保護育成補助金が71千円減少しました。

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、村野常右衛門生家の公開を中止したことにより、施設管理委託料が10千円減少しました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国や都からの補助金の交付額や市の財政状況の影響を大きく受ける事業です。これらの影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。また、積極的な情報発信により遺跡の認知度を高め、公開・活用の促進を図る必要があります。

◆2022年度からの全面公開に向けて、町田デジタルミュージアムを媒体として新たな考古・歴史・民俗資料の活用方法を検討する他、掲載資料を見学できる環境を整える必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆高ヶ坂石器時代遺跡は、3地点すべてが見学可能となったため、見学会の開催やホームページでの情報発信など積極的に広報活動を行います。 ◆町田デジタルミュージアム掲載資料を考古資料室と自由民権資料館で見学できる環境を整える他、学校教育での利用促進を検討・実施します。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。 ◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用していただくため、掲載内容の改善・更新を行います。

2020年度 事業別行政評価シート

部名		生涯学習部	主管課名		生涯学習総務課
歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業	事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。				
基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要領				
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称
	考古資料室見学者数	437	255	318	町田市考古資料室
	アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	4(5,981)	3(6,907)	2(11,255)	建設年月日
					1991年3月16日
					有形固定資産減価償却率
					2018年度 2019年度 2020年度
					55.8% 58.1% 60.4%

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆アウトリーチ展示期間の長期化に伴い、考古資料室の見学者数は2018年度から減少傾向にあります。規模の大きいアウトリーチ展示を実施する際には主要な展示品を持ち出すことになるため、双方に足を運びたいような魅力的な展示方法や広報活動の工夫が必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆2020年度に町田市立博物館から移管される考古資料を活用して考古資料室の展示内容を刷新するなど新たな魅力の発信に努めます。
◇見学者が施設を安全に利用でき、収蔵資料を適切に保管できるよう設備を定期的に点検し、計画的な修繕、管理を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	-	440	300	330	-	考古資料室年間見学者数
		実績	437	255	318			
アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	件(人)	目標	-	3(8,000)	3(4,500)	11,000	-	収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の件数及び見学者数
		実績	4(5,981)	3(6,907)	2(11,255)			

成果の説明
◆考古資料室とアウトリーチ展示を合わせた見学者数は4,411人(62%)増加し、11,573人となりました。
◆考古資料室見学者数は、63人(25%)増加し、318人となりました。
◆アウトリーチ展示は、町田ツーリストギャラリーとふれあい桜館(高齢者福祉センター)の2件を実施し、展示の実施場所を変更したことで見学者数は4,348人(63%)増加し、11,255人となりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
	A	B	B-A			A	B	B-A	
人件費	2,540	2,449	2,916	467	地方税	0	0	0	0
物件費	2,113	2,160	2,184	24	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,528	1,578	1,612	34	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	24	182	160	△ 22	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	2,695	3,157	2,967	△ 190	行政収入 小計(a)	0	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 7,619	△ 8,157	△ 9,301	△ 1,144
賞与・退職手当引当金繰入額	247	209	1,074	865	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	7,619	8,157	9,301	1,144	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 7,619	△ 8,157	△ 9,301	△ 1,144
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 7,619	△ 8,157	△ 9,301	△ 1,144

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費 2,916千円	決算額の主な内訳	除草及び低木剪定業務委託料 621千円 施設管理業務委託料 549千円 機械警備委託料 234千円 など
主な増減理由	町田市立博物館からの移管資料の対応により467千円増加。	主な増減理由	開館日数が減少したことにより施設管理業務委託料が25千円減少。委託先の人件費単価の上昇により除草及び低木剪定業務委託料が30千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	考古資料室クラック修繕 160千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	考古資料室の修繕箇所が1件減少したことにより修繕料が22千円減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人あたりコスト	人	2020	11,573	804	△ 335	見学者数が増加したため、見学者1人あたりのコストは、2019年度と比較して335円(△29%)減少し、804円となりました。
		2019	7,162	1,139	△ 48	
		2018	6,418	1,187		
		2020				
		2019				
		2018				
		2020				
		2019				
		2018				

④貸借対照表

(単位:千円)

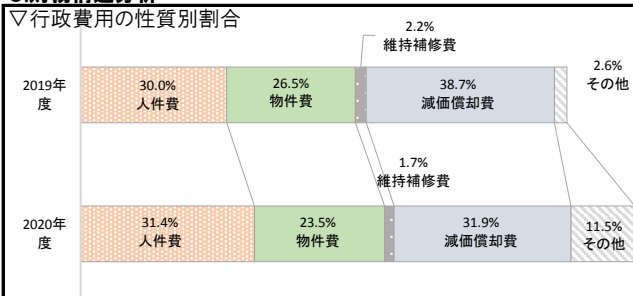
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			139	191	52	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			108,709	106,204	△ 2,505	賞与引当金			139	191	52
		土地			54,688	54,688	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			131,142	131,142	0	固定負債			1,855	2,604	749
		建物減価償却累計額			△ 77,121	△ 79,626	△ 2,505	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			1,855	2,604	749
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	繰延収益			0	0	0
		有形固定資産			0	0	0	長期前受金			0	0	0
		土地			0	0	0	負債の部合計			1,994	2,795	801
		工作物(取得価額)			0	0	0	純資産			108,563	104,795	△ 3,768
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
		建設仮勘定			0	0	0						
その他の固定資産			1,848	1,386	△ 462	純資産の部合計			108,563	104,795	△ 3,768		
資産の部合計				110,557	107,590	△ 2,967	負債及び純資産の部合計				110,557	107,590	△ 2,967

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	決算額の主な内訳	考古資料室(取得額) 131,142千円	決算額の主な内訳	土製耳飾リレプリカ 1,386千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により2,505千円減少。	主な増減理由	減価償却により462千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



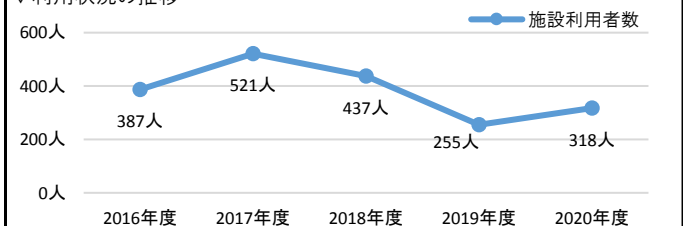
▽事業に関わる人員

(単位:人)

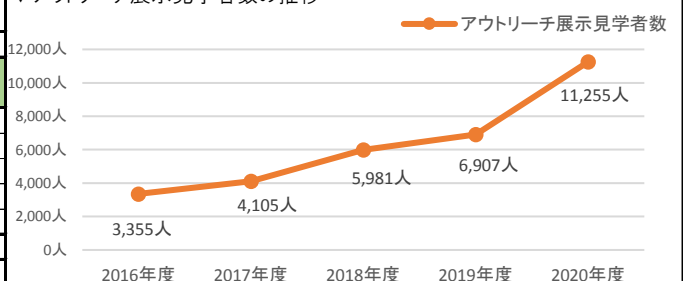
業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
考古資料室管理事務	0.3		0.1			0.4	0.3
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2020年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.3
2019年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	

6.個別分析

▽利用状況の推移



▽アウトリーチ展示見学者数の推移



7.総括

①成果および財務の分析

◆アウトリーチ展示は2件実施し、特に集客が期待できる町田ツリストギャラリーで実施したことにより、見学者数は4,348人(63%)増加し、11,255人となりました。また、考古資料室見学者数も、町田市立博物館所蔵の都指定有形文化財「異形台付土器」を東京都文化財ウィークにおいて特別公開した影響もあり63人(25%)増加し、318人となりました。

◆考古資料室及びアウトリーチ展示の見学者数を合わせると4,411人(62%)増加したため、見学者一人あたりのコストが335円(△29%)減少しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、考古資料室を臨時休室したことにより施設管理委託料が25千円減少しました。また、企画した6件のアウトリーチ展示のうち4件が中止となりましたが、実施した2件は実施場所、考古資料室の展示内容を工夫したことにより見学者数が4,411人(62%)増加し、見学者1人あたりのコストが335円(△29%)減少しました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆展示の実施場所、内容の工夫によって各利用者数は増加しましたが、今後も増加傾向を維持するために魅力的な展示の企画、実施場所の開拓する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2022年度に公開予定である町田デジタルミュージアムとの相乗効果を図るため、町田デジタルミュージアムに掲載される資料を考古資料室で見学できるよう展示構成を工夫します。 ◆より多くの方に資料を見て頂くため、アウトリーチ展示の実施場所の新規開拓を行います。	◆見学者が施設を安全に利用でき、収蔵資料を適切に保管できるよう設備を定期的に点検し、計画的な修繕・管理を行います。

2020年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
				事業類型	e:事業型(施設運営)

1.組織概要

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、市民の利用に供し、自由民権運動と町田の歴史についての市民の理解を深めます。				取 他 り 自 治 体 等 の	◆「自由民権運動」を冠する公立博物館は、全国で高知市立自由民権記念館、福島県三春町自由民権記念館及び当館の3館のみです。				
	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管、展示、閲覧、調査及び研究、図書の刊行、講座及びイベントの開催に関すること									
所管事務										
基本情報	根拠法令等									
			2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称		町田市立自由民権資料館		
	開館日数		306	213	250	建設年月日		1986年3月31日		
	特別展・企画展開催回数		3	2	2			2018年度	2019年度	2020年度
	講座実施回数		112	98	22	有形固定資産減価償却率		48.8%	38.4%	40.4%

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆自由民権資料館の利用者数は、年々増加傾向にあります。行政コストに見合う成果が十分ではありません。社会環境の変化をふまえ、更なる魅力の向上につながる事業や効率的・効果的な管理運営手法について検討する必要があります。
- ◆空調設備や照明機器の更改によるコスト面での影響分析・検証を行い、引き続き建物維持管理に努める必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアムの全面公開の際には、掲載する歴史資料について誰にでも分かりやすい解説を併せて掲載する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇自由民権資料館の役割や事業を整理し、新たな利用者の獲得や魅力の向上につながる事業、効率的・効果的な管理運営手法について検討します。
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により入館やイベント開催が制限されるため、新しい生活様式に合わせた開館方法やイベントを検討します。
- ◆展示や講座の基礎となる資料整理や資料保管環境の整備を積極的に行うことで、今後の展示や講座などの事業の充実に繋げます。
- ◇町田デジタルミュージアム構築完了にむけ、デジタルならではの見せ方や誰にでも分かりやすい解説を取り入れ、効果的な活用方法を検討します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	7,000	5,900	7,000	7,000	7,200	年間利用者数(出張講座等の施設外利用者含む)
		実績	7,852	8,084	4,106			
資料整理点数	点	目標	15,000	20,000	15,000	15,000		年間資料整理点数
		実績	13,306	9,108	15,783			

成果説明 ◆自由民権資料館のめざす姿と、それを実現するための事業と管理運営体制の見直しを定めた「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」を策定しました。◆町田の歴史に触れる機会を提供するため、館外での出張講座の実施や資料館周辺の歴史資源の紹介動画を配信しました。◆展覧会の内容・会期を変更し、収蔵資料を中心とした「能ヶ谷のかたち」及び「町田の民権家たち」を開催しました。◆休館期間を利用して資料整理に注力することにより目標値を上回る資料整理を行うことができました。◆町田市公式Twitterで展示情報や年表など資料館を身近に感じてもらえる情報を284回発信しました。◆町田市立博物館から、歴史資料200点、民俗資料4,000点を受入れました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	39,037	39,884	40,285	401	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	1,341	2,004	2,027	23	保険料	0	0	0	0
物件費	9,901	9,383	9,496	113	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	5,082	4,923	5,224	301	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	680	345	473	128	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	955	1,003	974	△ 29	その他	658	525	318	△ 207
減価償却費	7,391	7,391	9,809	2,418	行政収入 小計(a)	658	525	318	△ 207
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 60,913	△ 61,622	△ 64,948	△ 3,326
賞与・退職手当引当金繰入額	3,607	4,141	4,229	88	金融収支差額(d)	0	0	△ 71	△ 71
行政費用 小計(b)	61,571	62,147	65,266	3,119	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 60,913	△ 61,622	△ 65,019	△ 3,397
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 60,913	△ 61,622	△ 65,019	△ 3,397

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員給料等 27,442千円 会計年度任用職員報酬等 12,843千円	決算額の主な内訳	自由民権資料館電気料金(年間) 2,389千円 自由民権資料館総合管理業務委託料 2,105千円 民権の森史跡管理業務委託料 2,038千円 エレベーター保守点検業務委託料 264千円 など
主な増減理由	職員構成の変更等により人件費が401千円増加。	主な増減理由	危険木伐採により樹木剪定委託料が200千円増加。特殊建築物定期点検実施により施設点検委託料が90千円増加。展示内容を変更したことにより印刷製本費が316千円減少。
勘定科目	その他(行政収入)	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	図書等販売収入 267千円 複写機等使用料 46千円 講習会等参加費 4千円 公衆電話使用料 1千円	決算額の主な内訳	史料調査員謝礼 735千円 原稿執筆料 221千円 研究会・協議会会費 15千円 保険料 3千円
主な増減理由	講座やイベントを中止したことにより講習会等参加費が234千円減少。大学図書館などへの図書販売数の増加により図書等販売収入が45千円増加。	主な増減理由	講座の中止により講師謝礼が442千円減少。原稿量の減少により原稿執筆料が59千円減少。史料調査員への依頼件数の増加により史料調査員謝礼が483千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2020	4,106	15,895	8,207	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用者1人あたりのコストは、2019年度と比較して8,207円(207%)増加しました。
		2019	8,084	7,688	△ 153	
		2018	7,852	7,841		
		2020				
		2019				
		2018				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2019年度末				2019年度末			
A				A			
2020年度末				2020年度末			
B				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債	1,837	2,151	314
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	639,657	629,848	△ 9,809	賞与引当金	1,837	2,151
	土地	334,577	334,577	0	その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	490,459	490,459	0	固定負債	108,429	109,204
	建物減価償却累計額	△ 185,379	△ 195,188	△ 9,809	地方債	84,000	84,000
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	24,429	25,204
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	110,266	111,355
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	529,391	518,493
	工作物減価償却累計額	0	0	0			△ 10,898
固定資産	無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計	529,391	518,493
	建設仮勘定	0	0	0			△ 10,898
	その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	639,657	629,848
	資産の部合計	639,657	629,848	△ 9,809			△ 9,809

⑤貸借対照表の特徴的事項

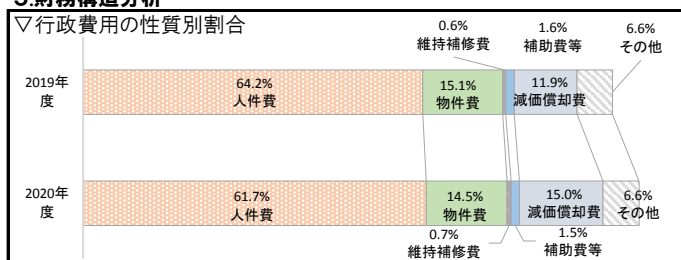
勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	決算額の主な内訳	自由民権資料館 490,459千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により9,809千円減少。	主な増減理由	

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

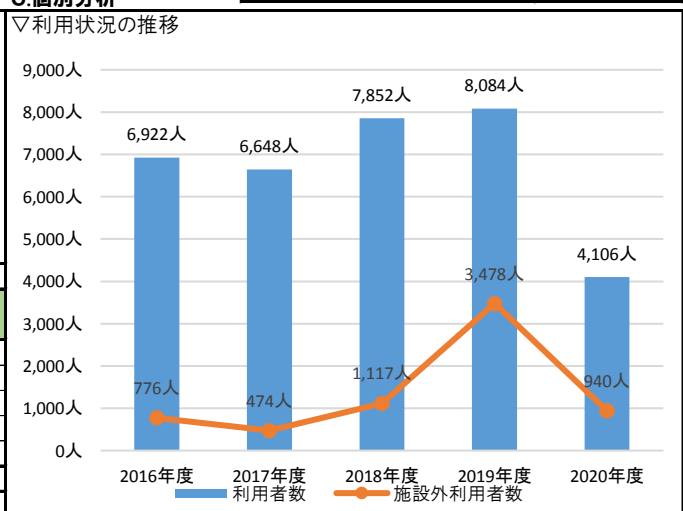
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	318	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	54,439	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 54,121	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 54,121
				一般財源充当調整額	54,121

5.財務構造分析



6.個別分析



7.総括

①成果および財務の分析

◆企画展「能ヶ谷のかたち」及び「町田の民権家たち」を開催し、観覧者数は2,222人でした。「能ヶ谷のかたち」は、鶴川駅前図書館に展覧会関連の特集本コーナーを設置するなど地域でのPRを行いました。◆忠生市民センター、鶴川市民センター、成瀬コミュニティセンターに出向いて歴史に関する講座を実施したり、森野や原町田にある史跡を歩いて探索する「町田の歴史を歩く」を行いました。館外で行う事業への参加者は940人でした。◆資料整理を行うとともに、『家永三郎文書目録』と『晴雨日記』の編集及び『武相近代史料集1-1 村野日誌1』を刊行しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館したことなどにより、自由民権資料館の利用者が3,978人(△49%)減少しました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため「民権カレッジ」をはじめとする、館内で行う歴史講座を中止しました。一方で、現地に足を運ばずに町田の歴史に触れる機会をつくるため、薬師池公園にある歴史資源を紹介する動画などをYouTubeで紹介しました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、手指消毒液を購入し、館内備品の清掃などを行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」に示した「めざす姿」を実現するため、事業の見直し及び効率的効果的な管理運営体制の構築に向けた取組を行う必要があります。
◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら事業を行うため、実施方法などについて検討する必要があります。
◆町田市立博物館から移管された民俗資料と、考古・歴史資料を一体的に活用していく取組を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」に基づき、事業の見直し及び効率的効果的な管理運営体制の構築に向けた取組を検討します。◆コロナ禍に対応した実施方法で事業を行います。◆民俗・考古・歴史資料を一体的に活用するため事業の整理及び組織体制の検討を行います。	◆町田市の歴史を後世に伝えるため、新たな『町田市史』編さんに向けて、様々な課題を整理し準備を行います。 ◆町田市の通史を紹介する資料館として、町田デジタルミュージアムの掲載資料と現物の資料を結びつけた展示を実施します。

2020年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができるよう支援します。	他自治体の取り組み等	◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、施設の休館や事業の中止が相次ぐ中、町田市生涯学習センターでは学習情報や講座のオンライン配信に取り組み、2020年度は70件の学習情報を提供しました。東京都公民館連絡協議会加盟自治体(11市)中では最も早く、大規模に実施しました。
所管事務	◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動の支援、各種団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に供すること		

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆市内に生涯学習センター・公民館が1館しかないため、施設中心の事業展開は利用者が偏る傾向があります。
- ◆施設の認知度向上についても継続して取り組む必要があります。
- ◆生涯学習審議会答申を踏まえ生涯学習センターの役割の明確化と経営資源の有効活用のため、効率的・効果的な管理運営を行う必要があります。
- ◆施設の老朽化に対応するため計画的に修繕を実施していく必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◆生涯学習センターの認知度向上及び市民が場所や時間の制約なく多様な学習資源に触れることができるよう、学習情報の電子化を進めます。
- ◆身近な場所でのきっかけづくりや地域課題の解決のため、主催事業の地域展開(アウトリーチ)を進めます。
- ◆生涯学習センターの役割、事業内容の見直しを進め、効率的・効果的な管理運営手法への移行を目指します。
- ◇長期修繕計画に基づき計画的な修繕を実施していきます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	-	-	-	-	増	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターの施設を利用した割合
		実績	76	77	51			
地域で実施した講座の延べ講座数	講座	目標	12	-	13	14	14	生涯学習センター以外の場所で地域団体との連携や地域課題の解決を目的に実施した主催講座等の延べ講座数
		実績	13	13	10		(2021年度)	
市民提案型事業「まちチャレ」実施数	事業	目標	-	5(2)	6(3)	6(3)	8(4)	町田市教育プラン2019-2023、町田市生涯学習推進計画2019-2023における重点事業()は地域での実施数
		実績	5(1)	5(2)	6(2)		(2023年度)	
成果の説明	◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、施設の閉館(2020年4月1日～6月7日)や開館時間の短縮(2021年1月8日～3月31日)、施設貸出の利用人数・内容の制限等を実施した結果、利用率は51%となりました。 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講座事業を中止する中、講座の地域展開として、鶴川地区協議会と連携した講座を3講座、市民提案型事業「まちチャレ」2講座及び市民大学2講座など合計10講座実施しました。 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講座事業を中止する中、市民提案型事業「まちチャレ」は、開催方法を工夫し、2講座をオンライン形式(録画配信)に切り替えたことで、予定通り6講座実施しました。 ◆生涯学習センターまつりのオンライン開催や一部市民大学講座の動画配信、コロナ川柳募集など講座・イベント事業のデジタル化に取り組みました。							

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	157,216	159,210	150,254	△ 8,956	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	8,655	10,091	7,436	△ 2,655	保険料	0	0	0	0
物件費	41,437	39,808	30,604	△ 9,204	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	17,651	16,303	12,806	△ 3,497	都支支出金	4,883	4,864	4,693	△ 171
維持補修費	19,852	4,628	2,151	△ 2,477	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	12,422	11,420	5,891	△ 5,529
補助費等	62,519	63,480	58,846	△ 4,634	その他	3,428	5,679	1,051	△ 4,628
減価償却費	18,507	18,507	18,507	0	行政収入 小計(a)	20,733	21,963	11,635	△ 10,328
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 296,691	△ 278,265	△ 266,421	11,844
賞与・退職手当引当金繰入額	17,893	14,595	17,694	3,099	金融収支差額(d)	△ 6,234	△ 4,948	△ 3,658	1,290
行政費用 小計(b)	317,424	300,228	278,056	△ 22,172	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 302,925	△ 283,213	△ 270,079	13,134
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 302,925	△ 283,213	△ 270,079	13,134

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 13,016千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託料 9,170千円 町田市立学校開放教室管理業務委託料 633千円 舞台機構保守点検業務委託料 500千円 舞台照明設備保守点検業務委託料 423千円 など	決算額の主な内訳	6F空調室内機修繕 1,298千円 6F事務室空調機圧縮機交換修繕 253千円 6Fカフェ減圧弁他交換修繕 109千円 7F和室奥側 空調機基盤交換修繕 109千円 町田センタービル設備修繕負担金 68千円 など
主な増減理由	施設の休館や開館時間の短縮、学校開放事業の縮小を行ったため、生涯学習センター光熱水費が4,278千円、生涯学習センター施設貸出・管理業務委託費管理委託料が2,402千円、開放教室管理業務委託料が928千円減少。	主な増減理由	占有区画の空調の修繕が増加したため、施設修繕料が852千円増加。共有区画において大きな工事・修繕を行わなかったため、町田センタービル設備修繕費負担金が3,260千円減少。
勘定科目	補助費等	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	町田センタービル管理費負担金 46,760千円 障がい者青年学級担当者謝礼 3,874千円 さがまちコンソーシアム運営支援負担金 2,000千円 市民大学講座講師謝礼 1,356千円 ことぶき大学講師謝礼 805千円 など	決算額の主な内訳	公民館施設使用料 5,771千円 附属設備使用料 120千円
主な増減理由	一部事業を中止したため、市民大学講座講師謝礼が1,439千円、障がい者青年学級担当者謝礼が1,384千円減少。協定見直しによりさがまちコンソーシアム運営支援負担金が500千円減少。	主な増減理由	施設の休館や開館時間の短縮を行ったため、公民館施設使用料が5,185千円、附属設備使用料が344千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2019年度末				2019年度末			
A				A			
2020年度末				2020年度末			
B				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	流動負債	161,579	162,704	1,125			
未収金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
不納欠損引当金	0	0	0	地方債	153,498	153,857	359
その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	8,081	8,847	766
固定資産	固定負債	420,221	269,493	△ 150,728	その他の流動負債	0	0
有形固定資産	2,224,914	2,206,805	△ 18,109	地方債	312,743	158,886	△ 153,857
土地	1,706,823	1,706,823	0	退職手当引当金	107,478	110,607	3,129
建物(取得価額)	810,237	810,237	0	その他の固定負債	0	0	0
建物減価償却累計額	△ 292,146	△ 310,255	△ 18,109	繰延収益	0	0	0
工作物(取得価額)	0	0	0	長期前受金	0	0	0
工作物減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	581,800	432,197	△ 149,603
無形固定資産	0	0	0	純資産	1,648,156	1,779,252	131,096
インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計	2,229,956	2,211,449	△ 18,507
その他の固定資産	5,042	4,644	△ 398				
資産の部合計	2,229,956	2,211,449	△ 18,507				

④貸借対照表の特徵的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有 持分100万分の254,148)	決算額の主な内訳	生涯学習センター 778,241千円 生涯学習センター陶芸スタジオ 31,996千円	決算額の主な内訳	重要物品(プロジェクター等)1,659千円、出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により生涯学習センターが18,109千円減少。	主な増減理由	減価償却により重要物品が398千円減少。

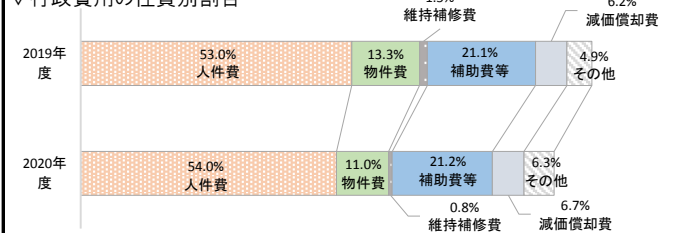
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	11,636	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	259,312	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	153,498
行政サービス活動収支差額(a)	△ 247,676	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 153,498
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 401,174
				一般財源充当調整額	401,174

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



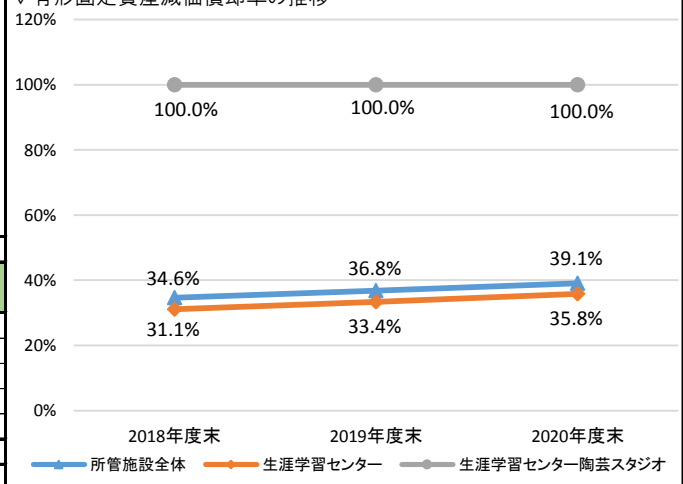
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
生涯学習センター管理事務	4.4	0.6	0.8			5.8	5.2
生涯学習支援事業	2.9	0.2	0.1	0.4		3.6	3.9
生涯学習講座事業	5.7			7.6		13.3	13.9
さがまちコンソーシアム事務	0.1					0.1	0.1
施設管理	0.9	0.2	0.1			1.2	0.9
2020年度 歳出目 合計	14.0	1.0	1.0	8.0	0.0	24.0	24.0
2019年度 歳出目 合計	14.0	1.0	1.0	8.0	0.0	24.0	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆2021年1月に、町田市生涯学習センターの目指すべき姿や効果的・効率的な管理運営手法について、町田市生涯学習審議会に諮問しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用の減少により、2019年度と比較し、施設利用率は26%減少し、利用人数は88,024人減少しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止した講座の代替として、新たに学習情報のオンライン配信を始め、70件の学習情報を提供しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、施設の休館や開館時間の短縮をしたことにより、2019年度と比較して施設利用料は、5,185千円(△47.3%)減少し、5,771千円となりました。また、イベントの自粛により、2019年度と比較してホールの音響・照明設備などの附属設備使用料は、344千円(△74.1%)減少し、120千円となりました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業の中止・縮小により2019年度と比較して講座受講料収入は、1,103千円(△61.8%)減少し、683千円となりました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市生涯学習審議会からの答申を踏まえ、町田市生涯学習センターのあり方見直し方針を策定する必要があります。
- ◆施設を効率的・効果的に運営するため、管理運営手法を検討する必要があります。
- ◆市民が場所や時間の制約なく多様な学習資源に触れることができるよう、学習情報の提供や主催講座のデジタル化を推進する必要があります。
- ◆身近な場所でのきっかけづくりや地域課題の解決のため、主催事業の地域展開(アウトリーチ)を推進する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針を策定します。 ◆市民がデジタル化に対応できるよう、デジタルデバッド対策事業を実施します。	◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針に基づき、事業及び効率的・効果的な管理運営体制の見直しを行います。

2020年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。	取組自治体の他自治体等	◆セルフ貸出などの非接触型のサービスを可能とするICタグを導入しているのは多摩26市中15市ありますが、それに加えてスマートフォンによる蔵書点検やより詳細な所在位置情報を案内できるセルフ予約棚の設置を実現する、ICタグ・カラーバーコードシステムを導入しているのは町田市だけです。町田市立図書館はこのシステムを2014年度のシステム更改から導入しています。
所管事務	◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関する事 ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関する事 ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関する事 ◆読書普及を目的とした各種行事に関する事 ◆移動図書館の運営に関する事及び図書館の維持管理に関する事 ◆地域文庫等関係団体の育成援助、図書館活動に係わるボランティアの育成に関する事 ◆町田市立図書館協議会に関する事		

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
◆子ども読書活動推進会議の運営の見直しや、外国語の絵本・児童書の効果的な選書方法及び英語多読コーナーの運用方法の検証が必要です。
◇読書離れが進む中高生をはじめ、図書館をあまり利用していない人に対し、世代別の読書普及・図書館利用促進の事業を行う必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
◆「英語多読コーナー」の全館設置を目指し、外国語の絵本・児童書の計画的な購入を行うとともに、英語多読を定着させるために市民による多読サークルの結成を支援して、読書普及・図書館利用促進の事業を行います。
◆自ら進んで本を読む子を育てるために、関係部署や関係団体と連携し、第四次子ども読書活動推進計画に取り組んでいきます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	4,007,000	4,046,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)
		実績	3,720,658	3,305,383	2,714,271		(2023年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.26	3.28	3.30	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除したもの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.07	2.73	2.23		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	2,090,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	2,089,332	1,892,224	1,397,115		(2023年度)	

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービスの充実、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組34項目中21項目を実行しました。◆暮らしの中で気軽に本と出会えるきっかけをつくるため、地域文庫や大学図書館など本に触れ合える場所を73カ所掲載した読書マップを作成しました。◆2020年11月から町田市立図書館と横浜市立図書館の相互利用を開始し、他の自治体間との相互利用サービスは10市になりました。◆小学校4～6年生、中学生、高校生を対象に「ひとことPOPコンテスト」を実施し、413作品の応募がありました。◆外国語の絵本・児童書を活用するため、2020年度中に英語多読講演会を2回実施しました。◆移動図書館の実証実験として、7月から芦ヶ谷公園多目的広場(せりがや冒険遊び場前)や幼稚園・保育園に出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、カウンターへのビニールカーテンの設置、予約資料のカバーの消毒、予約照会機やセルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対策を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

行政費用					行政収入				
勘定科目	2018年度	2019年度 A	2020年度 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度	2019年度 A	2020年度 B	差額 B-A
人件費	811,513	805,869	771,959	△ 33,910	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	14,682	16,434	14,037	△ 2,397	保険料	0	0	0	0
物件費	284,414	372,975	291,085	△ 81,890	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	64,579	162,547	111,004	△ 51,543	都支出金	4,798	0	0	0
維持補修費	55,873	17,206	26,521	9,315	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11	11	11	0
補助費等	53,141	53,600	54,766	1,166	その他	3,328	2,924	1,446	△ 1,478
減価償却費	49,496	50,205	48,821	△ 1,384	行政収入 小計(a)	8,137	2,935	1,457	△ 1,478
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 1,312,408	△ 1,343,421	△ 1,229,022	114,399
賞与・退職手当引当金繰入額	66,108	46,501	37,327	△ 9,174	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	1,320,545	1,346,356	1,230,479	△ 115,877	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 1,312,408	△ 1,343,421	△ 1,229,022	114,399
特別費用 (g)	50,027	46,692	48,747	2,055	特別収入 (f)	168	289	2,329	2,040
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 49,859	△ 46,403	△ 46,418	△ 15	当期収支差額 (e)+(h)	△ 1,362,267	△ 1,389,824	△ 1,275,440	114,384

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 402,769千円 再任用職員 41,982千円 会計年度業務職員 294,176千円 会計年度補助職員 32,591千円 図書館協議会委員報酬 441千円	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 84,545千円 町田市立中央図書館施設運営補助業務委託料 48,400千円 図書館情報システムサービス使用料 42,930千円 鶴川駅前図書館総合管理業務委託料 22,023千円 図書館書籍配送業務委託料 8,293千円など
主な増減理由	職員構成の変化により、33,910千円の減少。	主な増減理由	中央図書館施設運営補助業務委託料48,400千円が増加した一方、図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料105,662千円の減少やICタグカラーバーコードシステム使用料の減少などにより、81,890千円の減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	中央図書館映像音響設備改修工事 5,170千円 中央図書館配管内劣化診断調査に伴う負担金 4,346千円 金森図書館防犯カメラ設備更新工事 4,058千円 エルムビル消防設備改修工事に伴う負担金 2,610千円 エルムビル蓄電設備変換工事に伴う負担金 2,460千円など	決算額の主な内訳	複写機使用料 419千円 広告掲載料(パンフレットラック・HPバナー広告) 380千円 光熱水費使用料 155千円 紛失図書弁償金 80千円など
主な増減理由	中央図書館映像音響設備改修工事や金森図書館防犯カメラ設備更新工事などにより、9,315千円の増加。	主な増減理由	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館等の影響により、複写機使用料及びパンフレットラック広告掲載料が減少したほか、2階エントランスの柱への広告掲載が中止されたことなどにより、1,478千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2019年度末				2020年度末			
A				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債	30,886	37,327	6,441
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	1,015,892	990,714	△ 25,178	賞与引当金	30,886	37,327
	土地	343,044	343,044	0	その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	1,609,449	1,623,410	13,961	固定負債	410,811	388,699
	建物減価償却累計額	△ 936,601	△ 975,740	△ 39,139	地方債	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	410,811	388,699
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	441,697	426,026
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	2,863,345	2,842,621
	工作物減価償却累計額	0	0	0			
	無形固定資産	0	0	0			
	建設仮勘定	0	0	0			
	その他の固定資産	2,289,150	2,277,933	△ 11,217	純資産の部合計	2,863,345	2,842,621
資産の部合計				負債及び純資産の部合計	3,305,042	3,268,647	△ 36,395
3,305,042				3,268,647			

④貸借対照表の特徴的事項

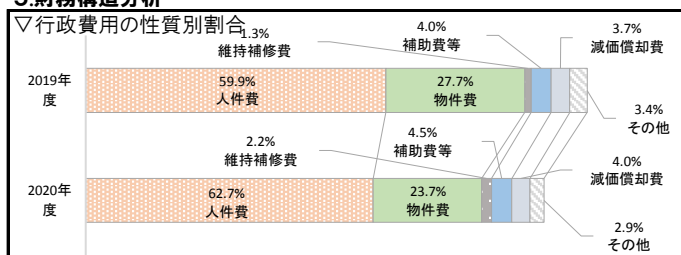
勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	決算額の主な内訳	中央図書館 1,402,817千円 さるびあ図書館 109,131千円 木曾山崎図書館 111,462千円 中央図書館4階5階照明設備改修工事により、13,961千円増加。	決算額の主な内訳	図書資産 2,245,521千円 出資金(エルム・スリー管理)6,600千円 忠生図書館書架等備品 25,812千円 図書購入・寄贈・除籍・特別収入及び特別費用と、忠生図書館書架等備品の減価償却により、11,217千円の減少。
主な増減理由	増減なし	主な増減理由		主な増減理由	

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

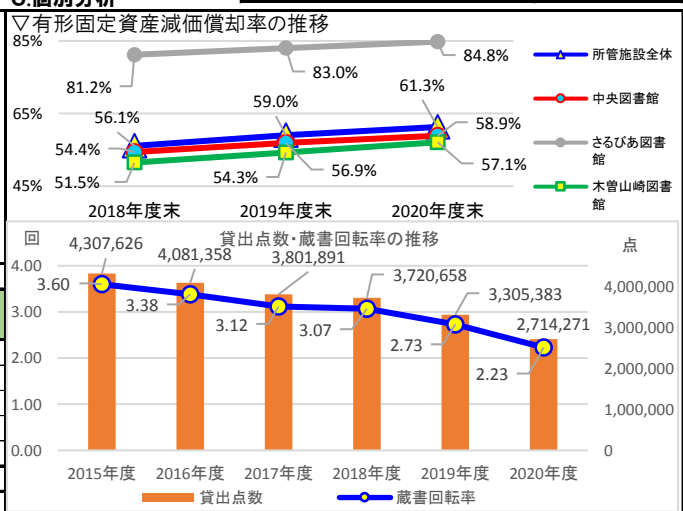
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	1,070	社会資本整備等投資活動収入	20	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,195,312	社会資本整備等投資活動支出	36,464	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,194,242	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 36,444	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,230,686
				一般財源充当調整額	1,230,686

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用(フルタイム)	再任用(短時間)	会計年度(業務)	会計年度(補助)	2020合計	2019合計
図書館管理事務	7.6	0.4		1.6	0.3	9.9	8.7
各館庶務事務	11.4	1.6		1.5	0.5	15.0	14.4
企画運営事務	10.9	0.2	0.1	3.7	0.1	15.0	12.6
資料貸出・閲覧業務	16.4	4.4	1.6	74.5	16.5	113.4	128.3
利用援助・普及事業	2.7	0.4	0.3	8.6		12.0	15.5
2020年度歳出目 合計	49.0	7.0	2.0	89.9	17.4	165.3	179.5
2019年度歳出目 合計	54.0	6.0	4.0	98.9	16.6	179.5	

7.総括

①成果および財務の分析

◆全館で「利用者アンケート」を行い、1,853人から回答を得て利用実態や利用者満足度を把握しました。◆「英語多読コーナー」がある中央・鶴川駅前・忠生を中心に外国語の絵本・児童書を867冊購入し、蔵書数は5,708冊になりました。◆「アクションプラン」に基づき、中央図書館施設運営補助業務委託を開始し、会計年度任用職員制度導入に合わせて人員体制の見直しを行い、2019年度よりも常勤・再任用で6人、会計年度任用職員で8人の人員減となりました。また、鶴川駅前の指定管理者制度導入の準備を行いました。◆緊急修繕や工事を行い、各施設の維持管理及び安全管理に努めました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や各種講座の延期・中止、参加人数や閲覧席の削減等により、図書館貸出点数は2019年度より591,112点減少し、来館者数も495,109人減少しました。◆自宅で楽しめるサービスを検討し、インターネットで読むことのできる資料や読み聞かせ動画、ぬり絵、図書館で過去に作成した資料の電子データ化等をホームページで紹介しました。◆臨時休館中も予約資料受渡しサービスは継続し、利用者の要望に応えるよう努めました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」の実行にあたり、アンケート等で得られた市民ニーズや社会情勢の変化を反映させる必要があります。また、民間活力の導入効果を検証するため、定期的に利用者満足度を把握する必要があります。◆さらなる中高生のニーズの把握や、効果的なPR方法の検討をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2022年度4月から、鶴川駅前図書館に指定管理者制度を導入します。 ◆図書館利用の少ない中高生のニーズを把握するため、「町田創造プロジェクト」メンバーや子どもセンターの運営委員との意見交換を行う機会をつくり、中高生が図書館事業に参加できる仕組みについて検討します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2020年度 事業別行政評価シート

2020年度 事業別行政評価シート				部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立中央図書館		
	蔵書数(視聴覚資料含む)	579,581点	578,897点	578,172点	建設年月日	1990年4月16日		
	予約・リクエスト件数	177,196件	165,084件	154,333件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	390,041人	343,159人	266,363人	有形固定資産減価償却率	54.4%	56.9%	58.7%

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かし、町田市の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
- ◇居心地のよい空間のある図書館を求める声に応えていく必要があります。
- ◇安心して施設を利用してもらうために、設備等の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応と、長期的な維持管理計画に基づく設備改修が必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
- ◆地域で活動するボランティアに向けた講座やボランティアの交流会を企画するなど、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。
- ◆市立図書館の中心館として、町田市の課題に対応するための、特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と連携して行います。
- ◆2019年度から提供を開始した中高生のグループ学習用スペースの提供期間を拡大します。
- ◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、館内照明設備やホール音響設備の改修工事など、施設や設備の修繕を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,116,000	1,127,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)
		実績	1,069,808	951,376	750,076		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	610,000	612,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	608,275	553,290	395,769		(2023年度)	

- 成果の説明
- ◆中央図書館30周年事業として、ひとことPOPコンテスト(応募総数413件)、英語多読講演会(76人参加)、児童文学作家講演会(33人参加)、30周年企画展示、回遊型謎解きゲーム「まちクエ2020」、映画会を実施しました。
 - ◆小学生の保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座(18人参加)、図書館ボランティア向けの講座(37人参加)、利用者に図書館をもっと活用してもらうための講座(37人参加)を開催したほか、市の関連部署と連携した特集コーナーを16回設置して、図書館利用の促進に努めました。
 - ◆集会室を活用し、土日祝日に中高生向けグループ学習用スペースとして「わいわいキャレール」を開設しました(延べ利用グループ数81組177人)。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

行政費用					行政収入				
勘定科目	2018年度	2019年度 A	2020年度 B	差額 B-A	勘定科目	2018年度	2019年度 A	2020年度 B	差額 B-A
人件費	362,140	368,257	317,854	△ 50,403	地方税	0	0	0	0
物件費	92,121	115,044	118,136	3,092	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	10,649	38,497	53,676	15,179	都支出金	4,798	0	0	0
維持補修費	50,736	13,930	20,109	6,179	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	52,917	53,378	54,544	1,166	その他	1,776	1,535	736	△ 799
減価償却費	33,186	33,895	33,895	0	行政収入 小計(a)	6,574	1,535	736	△ 799
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 624,434	△ 617,539	△ 560,565	56,974
賞与・退職手当引当金繰入額	39,908	34,570	16,763	△ 17,807	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	631,008	619,074	561,301	△ 57,773	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 624,434	△ 617,539	△ 560,565	56,974
特別費用 (g)	15,514	18,121	26,340	8,219	特別収入 (f)	0	0	16,694	16,694
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 15,514	△ 18,121	△ 9,646	8,475	当期収支差額 (e)+(h)	△ 639,948	△ 635,660	△ 570,211	65,449

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 193,620千円 再任用職員 15,280千円 会計年度任用職員 108,741千円など	決算額の主な内訳	町田市立中央図書館施設運営補助業務委託料 48,400千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 27,308千円 図書館情報システムサービス使用料 13,867千円など
主な増減理由	中央図書館施設運営補助業務委託による一部業務の外部委託化、会計年度任用職員制度導入に合わせた人員体制の見直しにより、50,403千円減少。	主な増減理由	図書館システム更新完了に伴いシステム導入委託料33,706千円が減少した一方、中央図書館施設運営補助業務委託の開始などにより、3,092千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	映像音響設備改修工事 5,170千円 配管内部劣化診断調査に伴う負担金 4,346千円 エルムビル消防設備改修工事に伴う負担金 2,610千円など	決算額の主な内訳	複写機使用料 333千円 広告掲載料 140千円 光熱水費使用料 108千円など
主な増減理由	6階ホールの映像音響設備改修工事、配管内部劣化診断調査など、比較的大規模な改修工事や調査を実施したため6,179千円増加。	主な増減理由	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館等の影響により、複写機使用料が減少したほか、2階エントランスの柱への広告掲載が中止されたことなどにより、799千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	578,172	971	△ 98	人件費の減少により、単位あたりコストが98円減少しました。
		2019	578,897	1,069	△ 20	
		2018	579,581	1,089		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	5,968	94,052	△ 9,680	人件費の減少により、単位あたりコストが9,680円減少しました。
		2019	5,968	103,732	△ 2,000	
		2018	5,968	105,732		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	2,319,426	76,404	人件費が減少した一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館により開館日数が34日(△12.3%)減少したため、単位あたりコストが76,404円(3.4%)増加しました。
		2019	276	2,243,022	160,487	
		2018	303	2,082,535		

④貸借対照表

(単位:千円)

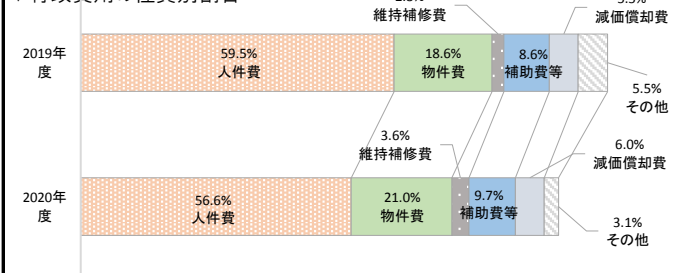
勘定科目			2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A
流動 資産	未収金		0	0	0	流動負債			16,030	16,763	733
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		0	0	0
固定 資産	事業 用 資 産	有形固定資産	864,024	844,090	△ 19,934	固定負債	賞与引当金		16,030	16,763	733
		土地	262,513	262,513	0		その他の流動負債		0	0	0
		建物(取得価額)	1,388,856	1,402,817	13,961		繰延収益		213,211	186,856	△ 26,355
		建物減価償却累計額	△ 787,345	△ 821,240	△ 33,895		地方債		0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金		213,211	186,856	△ 26,355
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債		0	0	0
	イン フ ラ 資 産	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0	
		有形固定資産	0	0	0	長期前受金		0	0	0	
		土地	0	0	0	負債の部合計		229,241	203,619	△ 25,622	
		工作物(取得価額)	0	0	0	純資産			1,954,491	1,954,587	96
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
		建設仮勘定	0	0	0						
		その他の固定資産		1,319,708	1,314,116	△ 5,592	純資産の部合計		1,954,491	1,954,587	96
資産の部合計			2,183,732	2,158,206	△ 25,526	負債及び純資産の部合計		2,183,732	2,158,206	△ 25,526	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298)	決算額の主な内訳	中央図書館 1,402,817千円(専有部分建物面積合計5,262.05㎡)	決算額の主な内訳	図書資産 1,307,516千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	4階5階照明設備改修工事により、13,961千円増加。	主な増減理由	購入18,726千円、寄贈2,022千円、除籍△26,307千円、特別費用△33千円により、図書資産額が5,592千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



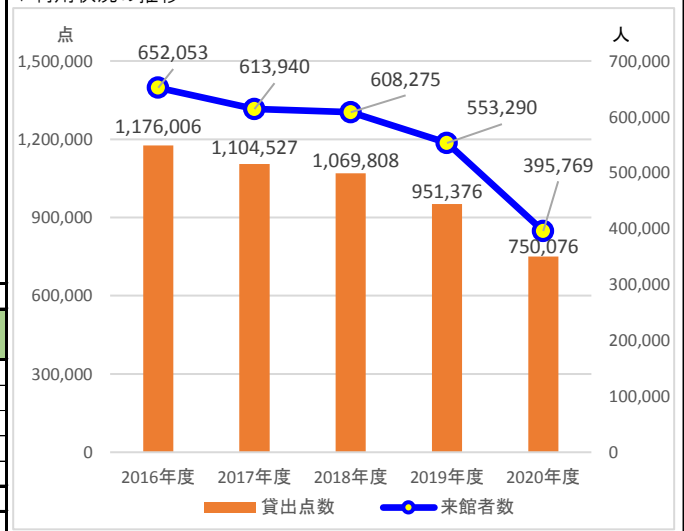
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
内訳							
図書館管理事務	5.7	0.1		0.4	0.3	6.5	5.0
各館庶務事務	4.3	0.9		0.9	0.5	6.6	7.7
企画運営事務	6.3	0.1		2.3		8.7	7.6
資料貸出・閲覧業務	5.7	1.6		24.2	2.7	34.2	48.3
利用援助・普及事業	2.0	0.3		3.4		5.7	7.0
2020年度 特定事業 合計	24.0	3.0	0.0	31.2	3.5	61.7	75.6
2019年度 特定事業 合計	28.0	3.0	1.0	34.3	9.3	75.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆回遊型謎解きゲーム「まちクエ2020」は2か月半の実施期間で45人の参加がありました。特集展示では「30」にちなんだ特集で延べ130冊の本が貸出され、中央図書館の30年前の写真や図書館まつり実行委員会有志による展示を多くの人に見ていただきました。
- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に基づき、中央図書館5階カウンター業務などについて外部委託を実施するとともに、会計年度任用職員制度導入に合せて人員体制の見直しを行い、2019年度に比べ、常勤・再任用職員で5人、会計年度任用職員で9人の人員減となりました。
- ◆中央図書館4・5階の照明をLED化する照明設備改修工事、6階ホールの映像音響設備改修工事を行い、利用環境を改善しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、臨時休館や閉館時間の繰り上げ等、開館日・時間が減少したため、2019年度より貸出点数は201,300点減少し、来館者数は157,521人減少しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、おはなし会や各種講座の延期や中止、参加人数や閲覧席の削減等を行った一方、様々なテーマの特集コーナーや、子ども向けに「本のおたのしみ袋」「にんぎものをさがせ」「ちしき王をめざせ」等を実施しました。映画会は定員を半分に減らして実施し、全33回の上映で延べ1,189人が鑑賞しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーテーションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、予約照会機やセルフ貸出機等の定期的な清掃、消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かし、町田市の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
- ◆居心地のよい空間のある図書館を求める声に応えていく必要があります。
- ◆安心して施設を利用してもらうために、設備等の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応と、長期的な維持管理計画に基づく設備改修をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆地域や図書館で活動するボランティアに向けた講座や研修を企画する等、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。 ◆市立図書館の中心館として、町田市の課題に対応するための特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と連携して行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、2020年度に実施した配管内部劣化診断結果を活用し、施設設備の計画的修繕を行います。

2020年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立さるびあ図書館		
	蔵書数	133,684点	134,421点	133,896点	建設年月日	1972年5月22日		
	予約・リクエスト数	67,353件	63,702件	65,491件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	96,010人	85,200人	70,938人	有形固定資産減価償却率	81.2%	83.0%	84.8%

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◇移動図書館の貸出冊数は、利用者のライフスタイルの多様化や変化により伸び悩んでいます。利用状況を分析し対応策を検討する必要があります。
 ◆子ども読書活動を推進するため、学校図書館支援貸出の充実が求められています。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
 ◇さるびあ図書館と堺図書館の移動図書館3台の巡回運行の見直しを行い、幼稚園、保育園やイベント等へ展開し利用促進を図ります。
 ◆学校図書館支援貸出しの充実に向けて、テーマ別学校支援貸出用セットの準備や、教員・図書指導員への研修会等の機会を通して制度の説明を行い、利用促進を図っていきます。
 ◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	385,000	389,000	392,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館2台の貸出点数を含む)
		実績	359,704	322,493	266,215		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	226,000	228,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	226,922	183,144	124,522		(2023年度)	

成果の説明 ◆移動図書館2台が37か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。
 ◆移動図書館の実証実験として、7月から芹ヶ谷公園多目的広場(せりがや冒険遊び場前)や幼稚園・保育園に出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。
 ◆小・中学校から依頼を受け、テーマに沿った資料を選書し、22校に2,691冊の配本を行いました。
 ◆中学2年の職場訪問インタビューを4人受け入れ図書館の仕事を紹介しました。
 ◆図書館実習の大学生2人を受け入れ、移動図書館の業務を体験してもらいました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目					2018年度	2019年度	2020年度	差額			
					A	B	B-A							A	B	B-A				
行政費用	人件費	103,616	101,241	99,897	△ 1,344	地方税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	物件費	26,406	35,069	24,636	△ 10,433	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	うち委託料	6,508	15,684	6,804	△ 8,880	都支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	維持補修費	2,955	1,135	370	△ 765	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11	11	11	0	0	0	0	0	0	0				
	補助費等	19	18	16	△ 2	その他	300	280	151	△ 129	311	291	162	△ 129	311	291	162	△ 129		
	減価償却費	2,067	2,067	2,067	0	行政収入 小計(a)	311	291	162	△ 129	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 143,438	△ 143,254	△ 131,459	11,795	△ 143,438	△ 143,254	△ 131,459	11,795	
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 143,438	△ 143,254	△ 131,459	11,795	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	0	0	0	0	
	賞与・退職手当引当金繰入額	8,686	4,015	4,635	620	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 143,438	△ 143,254	△ 131,459	11,795	△ 143,438	△ 143,254	△ 131,459	11,795	
	行政費用 小計 (b)	143,749	143,545	131,621	△ 11,924	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 143,438	△ 143,254	△ 131,459	11,795	特別費用 (g)	6,757	3,844	4,998	1,154	特別収入 (f)	0	3,363	207	△ 3,156
	特別費用 (g)	6,757	3,844	4,998	1,154	特別収入 (f)	0	3,363	207	△ 3,156	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,757	△ 481	△ 4,791	△ 4,310	当期収支差額 (e)+(h)	△ 150,195	△ 143,735	△ 136,250	7,485
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,757	△ 481	△ 4,791	△ 4,310	当期収支差額 (e)+(h)	△ 150,195	△ 143,735	△ 136,250	7,485											

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 52,414千円 再任用職員 9,759千円 会計年度任用職員 37,666千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,609千円 清掃業務委託料 4,806千円 図書館情報システムサービス使用料 3,864千円など
主な増減理由	職員構成の変化により1,344千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料などの減少により10,433千円の減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	内部塗装修繕 275千円 給水管漏水修繕 95千円	決算額の主な内訳	公衆電話ボックス本柱・支線等設置使用料(行政財産使用料) 11千円
主な増減理由	大規模な改修工事を行わなかったため765千円減少。	主な増減理由	増減なし

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	133,896	983	△ 85	人件費や物件費などが減少したことにより、単位あたりコストが85円減少しました。
		2019	134,421	1,068	△ 7	
		2018	133,684	1,075		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	1,260	104,461	△ 9,464	人件費や物件費などが減少したことにより、単位あたりコストが9,464円減少しました。
		2019	1,260	113,925	△ 162	
		2018	1,260	114,087		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	543,888	21,906	人件費や物件費などが減少した一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が33日(△12.0%)減少したため、単位あたりコストが21,906円(4.2%)増加しました。
		2019	275	521,982	42,819	
		2018	300	479,163		

④貸借対照表

(単位:千円)

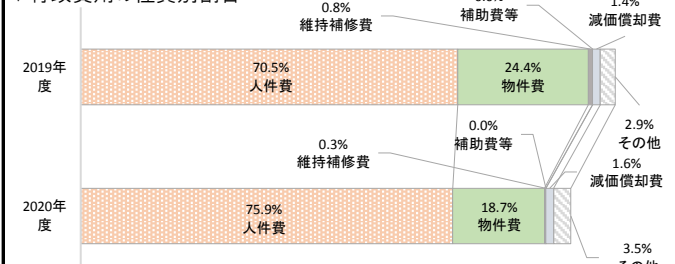
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A						
流動 資産	未収金			0	0	0	流動負債				4,015	4,635	620						
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金				0	0	0					
	その他の流動資産			0	0	0			地方債				0	0	0				
										賞与引当金				4,015	4,635	620			
固定 資産	事業 用 資産	有形固定資産			100,064	97,997	△ 2,067				固定負債	その他の流動負債			0	0	0		
		土地	建物(取得価額)			109,131	109,131	0				地方債				0	0	0	
			建物減価償却累計額			△ 89,597	△ 91,664	△ 2,067	退職手当引当金							53,405	50,583	△ 2,822	
			工作物(取得価額)			0	0	0		その他の固定負債						0	0	0	
			工作物減価償却累計額			0	0	0					繰延収益				0	0	0
			無形固定資産			0	0	0						長期前受金				0	0
	イン フラ 資 産	有形固定資産			0	0	0	負債の部合計				57,420	55,218		△ 2,202				
		土地	工作物(取得価額)			0	0		0	純資産				262,511	261,596	△ 915			
			工作物減価償却累計額			0	0		0		純資産の部合計				262,511	261,596	△ 915		
			無形固定資産			0	0		0			負債及び純資産の部合計				319,931	316,814	△ 3,117	
			建設仮勘定			0	0		0				資産の部合計				319,931	316,814	△ 3,117
		その他の固定資産			219,867	218,817	△ 1,050												
	資産の部合計				319,931	316,814	△ 3,117												

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	決算額の主な内訳	さるびあ図書館 109,131千円	決算額の主な内訳	図書資産 218,817千円
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、2,067千円減少。	主な増減理由	購入3,078千円、寄贈870千円、除籍△4,936千円、特別費用△62千円により、図書資産額が1,050千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用(フルタイム)	再任用(短時間)	会計年度(業務)	会計年度(補助)	2020合計	2019合計
内訳							
図書館管理事務	0.6	0.1				0.7	1.0
各館庶務事務	0.9					0.9	1.5
企画運営事務	0.7			0.2		0.9	0.7
資料貸出・閲覧業務	3.7	1.9		8.6	3.6	17.8	17.0
利用援助・普及事業	0.1			0.6		0.7	1.3
2020年度 特定事業 合計	6.0	2.0	0.0	9.4	3.6	21.0	21.5
2019年度 特定事業 合計	7.0	1.0	1.0	12.0	0.5	21.5	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

◆11月の芹ヶ谷公園「Future Park Lab」や3月の「シバヒロ読書ビュート」に移動図書館のイベント運行を行い、芹ヶ谷公園での移動図書館来場者数は約200人、貸出者数15人、貸出数は39冊、シバヒロでの来場者数約230人、貸出者数10人、貸出数は16冊でした。
 ◆学校図書館支援事業として、小中学校合わせて61校の登録校のうち22校から依頼を受け、学校が希望する特定のテーマの資料2,691冊を貸出・配本しました。2019年度より依頼校は4校減少しましたが、貸出冊数は59冊増加しました。団体貸出については全館で176団体の登録があり14,479冊の貸出を行いました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や各種講座の延期・中止、閲覧席の削減等のため、2019年度より貸出点数は56,278点、来館者数は58,622人減少しました。 ◆未就学児から5・6年生向けに「本の福袋」や乳幼児から未就学児向けに「おはなし会絵本セット」の貸出を行いました。また自宅で楽しめる企画として移動図書館そよかぜ号のぬり絵や工作の提供を行いました。 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーティションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆移動図書館1巡回あたりの貸出冊数は増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症が拡大している社会情勢のなか、外出自粛の影響があるのか等、今後の貸出冊数の推移を分析していく必要があります。
 ◆子どもの読書活動を推進するため、学校図書館支援貸出を充実させる必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆移動図書館巡回場所や予約資料受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。 ◆移動図書館のイベント運行や幼稚園・保育園への出張運行を本格実施します。 ◆学校図書館支援貸出の充実のため、学校の関係者にニーズの調査やヒアリングを行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆学校の関係者との連携を深め、ニーズ等の調査結果を学校図書館支援貸出サービスの改善に活かします。 ◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。

2020年度 事業別行政評価シート

2020年度 事業別行政評価シート			部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型	2:施設運営型	

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立鶴川図書館		
	蔵書数	48,215点	47,999点	48,757点	建設年月日	1972年2月15日		
	予約・リクエスト件数	43,370件	42,769件	40,230件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	59,202人	52,069人	44,522人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆高齢化が進む大規模団地内に所在し、近隣に保育園、小学校、中学校が多い立地環境にあります。貸出点数や来館者数は年々減少していることから、鶴川地域に必要な公共空間として鶴川図書館を地域の方々と考えることが必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
 ◆地域に根差した図書館づくりの基軸として、鶴川団地商店街のイベントなどに引き続き、積極的に取り組んでいきます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	207,000	209,000	211,000	211,000	211,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	186,874	163,540	139,898		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	173,000	174,000	174,000	174,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	173,545	143,373	115,801		(2023年度)	

成果の説明 ◆「こんな本がよみたい、つるだん(鶴川団地図書館)さん!」、「夏イベント にんきものをさがせ」、「おうちあそび おたすけグッズプレゼント」、「冬のイベント」などの館内イベントや特集を通して、利用者が普段選ばない分野やテーマの積極的な利用促進を図りました。 ◆2021年2月と3月に各1回ずつ、鶴川地域の住民、NPOなどの方を対象に「鶴川図書館再編後の姿を考えるワークショップ」を開催しました。 ◆鶴川地域図書館(鶴川図書館・鶴川駅前図書館)として鶴川地域子育て相談センターと連携して、「親子でたのしむ絵本教室」を三輪子どもクラブ「MIWA〜GO」で実施しました。参加者は7組(大人7人、子ども8人)でした。 ◆鶴川地域図書館として2020年7月に鶴川地区協議会に加入しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
	A	B	B-A			A	B	B-A	
人件費	37,599	33,436	43,666	10,230	地方税	0	0	0	0
物件費	15,188	20,906	12,755	△ 8,151	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,726	7,762	1,694	△ 6,068	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	35	18	124	106	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	162	161	164	3	その他	83	75	20	△ 55
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	83	75	20	△ 55
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 54,329	△ 55,589	△ 68,686	△ 13,097
賞与・退職手当引当金繰入額	1,428	1,143	11,997	10,854	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	54,412	55,664	68,706	13,042	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 54,329	△ 55,589	△ 68,686	△ 13,097
特別費用(g)	4,562	1,930	1,317	△ 613	特別収入(f)	950	3,647	93	△ 3,554
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 3,612	1,717	△ 1,224	△ 2,941	当期収支差額(e)+(h)	△ 57,941	△ 53,872	△ 69,910	△ 16,038

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 24,602千円 会計年度業務職員 16,228千円 会計年度補助職員 2,810千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 4,481千円 図書館情報システムサービス使用料 2,275千円 清掃業務委託料 686千円など
主な増減理由	2020年度に常勤職員1人の欠員が解消したことなどにより10,230千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料などの減少により8,151千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	事務室照明器具交換 124千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	事務室内の照明器具の一部が老朽化したため器具交換を実施し、106千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	48,757	1,409	249	人件費が増加したことにより、単位あたりコストが249円増加しました。
		2019	47,999	1,160	31	
		2018	48,215	1,129		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	260	264,254	50,162	人件費が増加したことにより、単位あたりコストが50,162円増加しました。
		2019	260	214,092	4,815	
		2018	260	209,277		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	283,909	81,494	人件費が増加したことと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が33日(△12.0%)減少したため、単位あたりコストが81,494円(40.3%)増加しました。
		2019	275	202,415	21,644	
		2018	301	180,771		

④貸借対照表

(単位:千円)

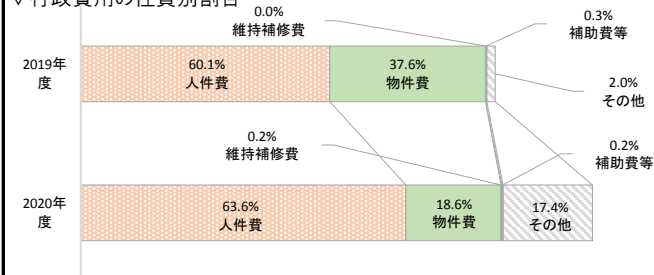
勘定科目				勘定科目			
2019年度末				2019年度末			
A				A			
2020年度末				2020年度末			
B				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債	1,143	2,228	1,085
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0		賞与引当金	1,143	1,085
	土地	0	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	0	0	固定負債	15,200	23,742	8,542
	建物減価償却累計額	0	0		地方債	0	0
	工作物(取得価額)	0	0		退職手当引当金	15,200	23,742
	工作物減価償却累計額	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	繰延収益	0	0	0
	有形固定資産	0	0		長期前受金	0	0
	土地	0	0	負債の部合計	16,343	25,970	9,627
	工作物(取得価額)	0	0	純資産	41,985	33,335	△ 8,650
	工作物減価償却累計額	0	0				
	無形固定資産	0	0				
	建設仮勘定	0	0				
	その他の固定資産	58,328	59,305	純資産の部合計	41,985	33,335	△ 8,650
資産の部合計				負債及び純資産の部合計	58,328	59,305	977
58,328				59,305			
977				977			

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 59,305千円	決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	購入1,289千円、寄贈912千円、除籍△1,317千円、特別収入93千円により、図書資産額が977千円増加。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



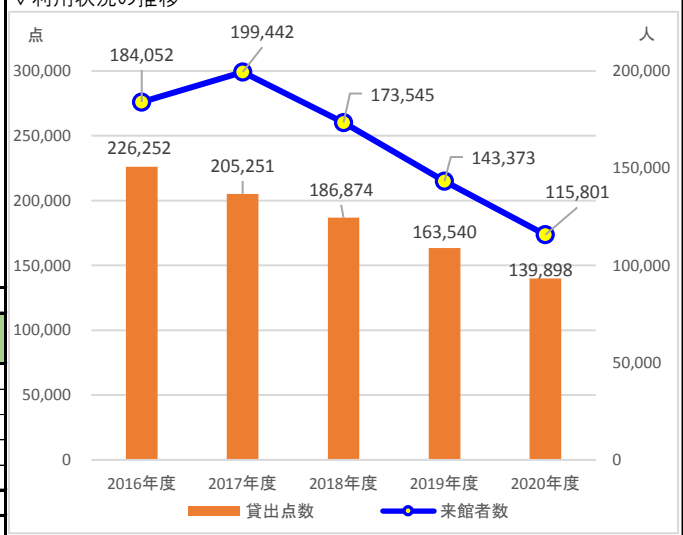
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
内訳							
図書館管理事務	0.1			0.2		0.3	0.4
各館庶務事務	1.2			0.3		1.5	0.5
企画運営事務	0.6			0.3		0.9	0.6
資料貸出・閲覧業務	1.0			3.5	1.5	6.0	5.7
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	1.2
2020年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.0	1.5	9.5	8.4
2019年度 特定事業 合計	2.0	0.0	0.0	5.1	1.3	8.4	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆2020年度に常勤職員1人の欠員が解消されたことなどにより、人件費が2019年度より増加しました。
- ◆「鶴川図書館再編後の姿を考えるワークショップ」を実施し、鶴川団地に残す機能や公共空間としての新しい価値、地域での運営など再編後の姿の検討をしました。参加者は第1回が28人、第2回が15人でした。 ◆館内イベントのうち、児童対象の「夏イベント にんきものをさがせ」は302人の参加がありました。また、中高生を含めた一般利用者を対象とした冬イベントでは、3つのテーマに沿ったおすすめ本のリストを作成し、参加者へ配布しました(260枚)。また3つのテーマごとに3冊の本を詰め合わせた「福袋」を先着9人に貸出しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会の中止や閲覧席の削減等により、貸出点数は2019年度より23,642点減少し、来館者数は27,572人減少しました。
- ◆おはなし会に代わる親子向けイベントとして、「おうちあそび おたすけグッズプレゼント」を行い、261人の参加がありました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーティションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆高齢化が進む大規模団地内に所在し、近隣に保育園、小学校、中学校が多い立地環境にあります。貸出点数や来館者数は年々減少していることから、鶴川地域に必要な公共空間として鶴川図書館を地域の方々と考えることが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆地域に根差した図書館づくりの基軸として、鶴川団地商店街のイベント等に引き続き、積極的に取り組んでいきます。 ◆今後の鶴川図書館の再編に向けて、地域住民との意見交換の場を設けていきます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2020年度 事業別行政評価シート

2020年度 事業別行政評価シート				部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
	2018年度			2019年度	2020年度	施設の名称		
	蔵書数			129,590点	125,710点	124,641点	建設年月日	
	予約・リクエスト件数			128,614件	125,158件	122,820件	2000年7月4日	
	貸出者数			182,963人	162,148人	136,734人	有形固定資産減価償却率	2018年度 2019年度 2020年度
						-	-	-

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆他部署や他機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供するために、イベントなどを行い、深めていく必要があります。
 ◇建築後19年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
 ◆開館20年が経過したことを機に、さらに多くの人に利用していただけるように、イベントなどを行って、読書普及や地域の課題解決、生活に役立つ事業を行います。
 ◇老朽化が進む金森図書館を安心して利用してもらうために、防犯カメラ設備更新工事など、施設や設備の修繕を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	708,000	715,000	722,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	668,881	583,086	486,043		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	259,000	260,000	260,000	260,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	258,351	236,446	203,724		(2023年度)	

成果の説明 ◆開館20周年記念イベントとして、金森図書館の公認キャラクター投票や記念撮影用等身大顔ハメパネルの展示、除籍資料を活用した「本のリサイクル市」、大人の読書手帳の配布などを行いました。読書手帳の規定冊数達成者には、ブックカバーやメモ帳を進呈しました。また、開館20周年記念イベント期間に合わせて、「POPで紹介図書館員、コレ読みました」の特集展示を行いました。 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、英字新聞で絵本を包んでつくった「お楽しみ袋」での貸出しや、お正月にはお薦め本の「福袋」での貸出し、幼児と保護者向けの「春休み青空おはなし会」を2回開催しました。 ◆他部署と連携して、「乳がん予防特集展示」「ゴミ袋サイズチャレンジ」、出張絵本講座「絵本を楽しもう」を実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目					2018年度	2019年度	2020年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	69,317	68,509	68,892	383	地方税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	物件費	34,161	46,299	31,220	△ 15,079	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	うち委託料	6,801	19,878	7,269	△ 12,609	都支支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	維持補修費	1,027	260	4,971	4,711	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	補助費等	7	8	8	0	その他	386	361	234	△ 127							
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	386	361	234	△ 127							
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 105,736	△ 118,688	△ 109,981	8,707							
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,610	3,973	5,124	1,151	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	行政費用 小計 (b)	106,122	119,049	110,215	△ 8,834	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 105,736	△ 118,688	△ 109,981	8,707							
	特別費用 (g)	9,688	8,911	8,370	△ 541	特別収入 (f)	5,802	81	161	80							
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,886	△ 8,830	△ 8,209	621	当期収支差額 (e)+(h)	△ 109,622	△ 127,518	△ 118,190	9,328								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 24,918千円 再任用職員 4,306千円 会計年度任用職員 39,641千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,822千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 清掃業務委託料 3,152千円など
主な増減理由	職員構成の変化により人件費が383千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料などの減少により15,079千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	防犯カメラ設備更新工事 4,058千円 照明修繕 368千円 消防設備修繕 174千円など	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	防犯カメラ設備更新工事や緊急修繕などにより4,711千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書1点あたりコスト	点	2020	124,641	884	△ 63	物件費が減少したことにより、単位当たりコストが63千円減少しました。
		2019	125,710	947	128	
		2018	129,590	819		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	1,500	73,477	△ 5,889	物件費が減少したことにより、単位当たりコストが5,889千円減少しました。
		2019	1,500	79,366	8,618	
		2018	1,500	70,748		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	455,434	22,529	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより、開館日数が33日(△12%)減少したため、単位あたりコストが22,529円(5.2%)増加しました。
		2019	275	432,905	79,165	
		2018	300	353,740		

④貸借対照表

(単位:千円)

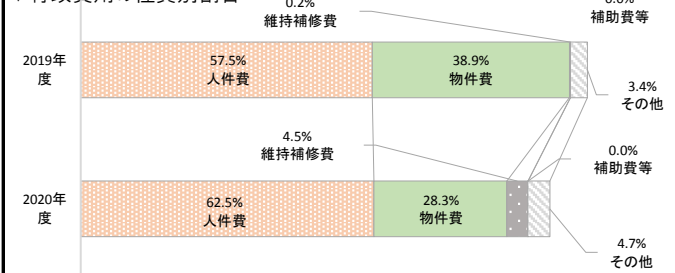
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				1,730	2,839	1,109	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	固定負債	賞与引当金			1,730	2,839	1,109
		土地			0	0	0		その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0					23,005	24,047	1,042
		建物減価償却累計額			0	0	0		地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0		退職手当引当金			23,005	24,047	1,042
		工作物減価償却累計額			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	繰延収益			0	0	0	
		有形固定資産			0	0	0	長期前受金			0	0	0	
		土地			0	0	0	負債の部合計			24,735	26,886	2,151	
		工作物(取得価額)			0	0	0	純資産				148,130	144,442	△ 3,688
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
		無形固定資産			0	0	0							
建設仮勘定			0	0	0									
その他の固定資産			172,865	171,328	△ 1,537	純資産の部合計			148,130	144,442	△ 3,688			
資産の部合計				172,865	171,328	△ 1,537	負債及び純資産の部合計				172,865	171,328	△ 1,537	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 171,328千円	決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	購入3,493千円、寄贈3,179千円、除籍△8,370千円、特別収入161千円により、図書資産額が1,537千円減少。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



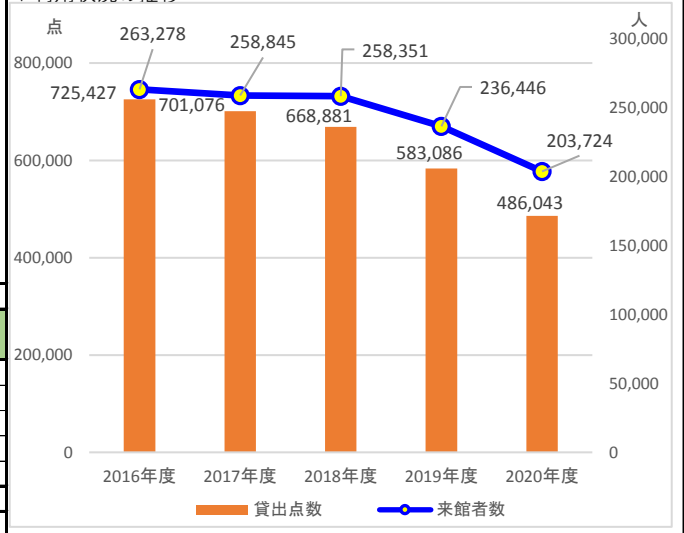
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
図書館管理事務	0.3			0.5		0.8	0.9
各館庶務事務	1.1					1.1	0.7
企画運営事務	0.3		0.2	0.1		0.6	0.4
資料貸出・閲覧事務	1.3		0.6	8.6	1.9	12.4	15.5
利用援助・普及事業			0.2	1.7		1.9	1.4
2020年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	10.9	1.9	16.8	18.9
2019年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	13.0	1.9	18.9	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

◆開館20周年記念イベントでは、金森図書館20周年年表や金森クイズを行い、金森図書館の公認キャラクター投票は2,883票集まりました。記念撮影用等身大顔ハメパネルの展示などとともに、地域情報紙の一面に掲載されました。また、「大人の読書手帳」は1,296枚配布し、記念品のブックカバーは97枚、メモ帳は54冊、達成者に進呈しました。◆子育て推進課と協働で、母親向けの出張絵本講座事業を行い、親子5組10人参加しました。◆開館後、初めて防犯カメラ設備更新工事を行い、安全管理に努めました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館や閉館時間の繰り上げなど、開館日・時間が減少したため、貸出点数が2019年度より97,043点減少し、来館者数も32,722人減少しました。◆おはなし会や各種講座の延期や中止などを行った一方、子ども向けにはお楽しみ袋、大人向けには福袋による「借りてみるまで中身がわからない」といった工夫をした貸出を行いました。また、感染拡大防止に配慮した「春休み青空おはなし会」を3/26と3/31に実施し、子ども15人、大人8人の参加がありました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーティションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆様々な年代の方に利用していただけるように、子ども向けのイベントを続けながら、シニア向けの事業を推進していく必要があります。◆建築後20年が経過し、施設の維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆開館20年が経過したことを機に、さらに多くの人に利用していただけるように、様々な行事を行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む金森図書館を安心して利用してもらうために、施設や設備の修繕を行い、施設の安全管理に努めます。

2020年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立忠生図書館		
	蔵書数	91,353点	95,372点	98,824点	建設年月日	2015年2月27日		
	予約・リクエスト件数	60,273件	59,453件	58,531件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	122,024人	107,089人	88,852人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
◆近隣公立小中学校のほか、公立高等学校、私立中・高等学校、子どもセンター「ただON」などにも図書館利用を働きかけ、若年層の利用を促進する必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
◆児童生徒の利用を増やすため、近隣公立小中学校、公立高等学校、私立中・高等学校、子どもセンター「ただON」などの関連部署と連携して、図書館の魅力をアピールしていきます。
◆市内の文学・歴史について紹介する講演会事業・展示事業を実施して、児童生徒のみならず、あらゆる世代の図書館利用促進を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	557,000	562,000	568,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	517,858	455,391	376,325		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	218,000	219,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	217,757	200,851	148,402		(2023年度)	

成果の説明
◆ひとことPOPコンテストでは、近隣小中学校に参加の呼びかけを行い、市内図書館の中で最も多い111作品の応募があり、そのうち1作品が館長特別賞を受賞しました。
◆中央図書館と鶴川駅前図書館とともに、英語多読コーナーの運用を開始しました。
◆「ビートルズを言葉で感じてみませんか」、「おうちで楽しむ夏の夜空」等毎月特集コーナーを設置し、図書館利用のPRを行い、利用促進を図りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目					2018年度	2019年度	2020年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	65,534	62,824	64,449	1,625	行政収入	地方税	0	0	0	0						
	物件費	37,117	49,730	32,891	△ 16,839		国庫支出金	0	0	0	0						
	うち委託料	11,831	25,419	12,450	△ 12,969		都支支出金	0	0	0	0						
	維持補修費	0	0	0	0		分担金及負担金	0	0	0	0						
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0						
	補助費等	9	8	8	0		その他	232	177	62	△ 115						
	減価償却費	11,065	11,065	9,682	△ 1,383		行政収入 小計(a)	232	177	62	△ 115						
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 115,554	△ 125,180	△ 112,115	13,065						
	賞与・退職手当引当金繰入額	2,061	1,730	5,147	3,417		金融収支差額 (d)	0	0	0	0						
	行政費用 小計 (b)	115,786	125,357	112,177	△ 13,180		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 115,554	△ 125,180	△ 112,115	13,065						
	特別費用 (g)	454	630	258	△ 372		特別収入 (f)	374	4,173	31	△ 4,142						
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 80	3,543	△ 227	△ 3,770	当期収支差額 (e)+(h)	△ 115,634	△ 121,637	△ 112,342	9,295								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 25,066千円 再任用職員 4,887千円 会計年度任用職員 34,468千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,822千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,633千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円など
主な増減理由	職員構成の変化により1,625千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料などの減少により16,839千円減少。
勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	98,824	1,135	△ 179	物件費が減少したことにより、単位あたりコストが179円減少しました。
		2019	95,372	1,314	47	
		2018	91,353	1,267		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	1,266	88,607	△ 10,411	物件費が減少したことにより、単位あたりコストが10,411円減少しました。
		2019	1,266	99,018	7,560	
		2018	1,266	91,458		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	463,541	7,697	物件費が減少しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が33日(△12.0%)減少したため、単位あたりコストが7,697円(1.7%)増加しました。
		2019	275	455,844	71,173	
		2018	301	384,671		

④貸借対照表

(単位:千円)

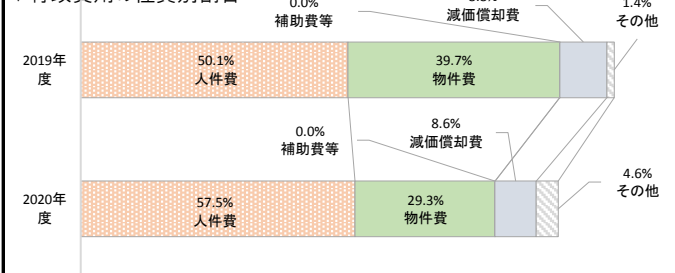
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				1,730	2,711	981	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	固定負債	賞与引当金			1,730	2,711	981
		土地			0	0	0		その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0					23,005	24,191	1,186
		建物減価償却累計額			0	0	0		地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0		退職手当引当金			23,005	24,191	1,186
		工作物減価償却累計額			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
		無形固定資産			0	0	0		繰延収益			0	0	0
	インフラ資産	有形固定資産			0	0	0	純資産	長期前受金			0	0	0
		土地			0	0	0		負債の部合計			24,735	26,902	2,167
		工作物(取得価額)			0	0	0					149,792	141,663	△ 8,129
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
		無形固定資産			0	0	0							
	建設仮勘定			0	0	0								
	その他の固定資産			174,527	168,565	△ 5,962	純資産の部合計			149,792	141,663	△ 8,129		
	資産の部合計			174,527	168,565	△ 5,962	負債及び純資産の部合計			174,527	168,565	△ 5,962		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 142,753千円 忠生図書館書架等備品 25,812千円	決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由	図書資産は、購入・寄贈・除籍及び特別収入により3,720千円増加。書架等備品は減価償却により9,682千円減少。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



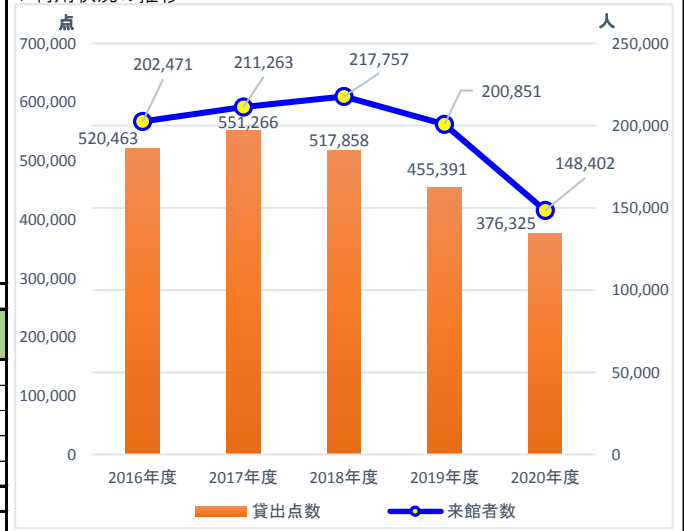
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
図書館管理事務	0.4	0.1				0.5	0.3
各館庶務事務	1.7	0.7				2.4	1.7
企画運営事務	0.4	0.1		0.2		0.7	1.0
資料貸出・閲覧業務	0.4	0.1		8.9	1.8	11.2	11.4
利用援助・普及事業	0.1			0.4		0.5	1.4
2020年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	9.5	1.8	15.3	15.8
2019年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	10.7	1.1	15.8	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆英語多読コーナーの運用を開始して、2020年度は外国語の絵本・児童書を323冊購入し、その蔵書冊数は526冊になりました。
- ◆「ビートルズを言葉で感じてみませんか」、「おうちで楽しむ夏の夜空」、「夏の暑さを乗り切ろう」、「笑門来福」、「〇〇年に読まれた本」、「猫の本」、「おいしい本」、「手紙」、「No.1」、「温活」、「終戦記念日」、「ハロウィン」、「冬(冬休み・雪・インフルエンザ)」、「バレンタイン・お菓子」などのテーマに沿った図書資料を集めて利用者に紹介する特集コーナーを59回実施しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会の中止や閲覧席及び多目的室の座席数の削減等により、2019年度より貸出点数は79,066点減少し、来館者数も52,449人減少しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーテーションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、予約照会機やセルフ貸出機等の定期的な清掃、消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆近隣公立小中学校のほかに、公立高等学校、私立中・高等学校、子どもセンター「ただON」等にも図書館利用を働きかけ、若年層の利用を促進する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆児童生徒の利用を増やすため、近隣公立小中学校、公立高等学校、私立中・高等学校、子どもセンター「ただON」等の関連部署と連携して、図書館の魅力をアピールしていきます。 ◆市内の文学・歴史について紹介する講演会事業・展示事業を実施して、児童生徒のみならず、あらゆる世代の図書館利用促進を行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2020年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	木曾山崎図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立木曾山崎図書館		
	蔵書数	57,583点	54,151点	52,929点	建設年月日	1976年3月25日		
	予約・リクエスト件数	36,165件	36,787件	36,634件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	69,865人	62,875人	54,086人	有形固定資産減価償却率	51.5%	54.3%	57.1%

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◇地域の方々から愛される何度も訪れたくなる図書館づくりを進める必要があります。
 ◇建築後40年以上が経過していることから、安全に施設を利用していただくため、適正な維持管理を行う必要があります。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
 ◇来館者数の目標達成に向けて、高齢者や子ども向けのイベントを効果的に行います。
 ◇必要な修繕等を行い、施設の維持管理を行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	235,000	237,000	240,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	222,670	202,115	169,457		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	196,000	197,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	196,371	199,870	141,259		(2023年度)	

- 成果の説明
 ◆「すくもりを楽しむ」、「日本の国宝」など毎月特集コーナーを設置し、図書館利用のPRを行い、利用促進を図りました(合計42回)。
 ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント事業に替え、家庭でできる工作キットの配布や、夏と春に袋詰めした本を貸し出す「本のおたのみぶくろ」を実施しました。
 ◆10月に七国山小学校に出張して、2年生を対象に小学校PC教室から各クラスへリモート授業を行い、図書館の仕事を紹介しました。また、11月及び12月にも七国山小学校に出張して全学年を対象に、リモートおはなし会を計3回行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
行政費用	人件費	47,747	44,735	41,504	△ 3,231	地方税	0	0	0
	物件費	15,719	22,021	13,144	△ 8,877	国庫支出金	0	0	0
	うち委託料	2,103	8,905	2,173	△ 6,732	都支支出金	0	0	0
	維持補修費	381	1,640	247	△ 1,393	分担金及負担金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
	補助費等	7	8	6	△ 2	その他	105	93	30
	減価償却費	3,177	3,177	3,177	0	行政収入 小計(a)	105	93	30
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 70,450	△ 74,587	△ 59,885
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,524	3,099	1,837	△ 1,262	金融収支差額 (d)	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	70,555	74,680	59,915	△ 14,765	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 70,450	△ 74,587	△ 59,885
特別費用 (g)	6,079	7,079	4,276	△ 2,803	特別収入 (f)	11	1	4,544	4,543
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,068	△ 7,078	268	7,346	当期収支差額 (e)+(h)	△ 76,518	△ 81,665	△ 59,617	22,048

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 17,805千円 再任用職員 2,879千円 会計年度任用職員 20,800千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,073千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 清掃業務委託料 1,124千円など
主な増減理由	職員構成の変化により3,231千円減少。	主な増減理由	図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料などの減少により8,877千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	自動扉開閉装置修繕 215千円 非常用照明蓄電池修繕 32千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	大規模な修繕が無かったことにより1,393千円減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	52,929	1,132	△ 247	人件費、物件費及び維持補修費が減少したことにより、単位あたりコストが247円減少しました。
		2019	54,151	1,379	154	
		2018	57,583	1,225		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	321	186,651	△ 45,997	人件費、物件費及び維持補修費が減少したことにより、単位あたりコストが45,997円減少しました。
		2019	321	232,648	12,850	
		2018	321	219,798		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	247,583	△ 23,981	人件費、物件費及び維持補修費が減少したことにより、開館日数が33日(△12%)減少しましたが、単位あたりコストが23,981円(8.8%)減少しました。
		2019	275	271,564	37,162	
		2018	301	234,402		

④貸借対照表

(単位:千円)

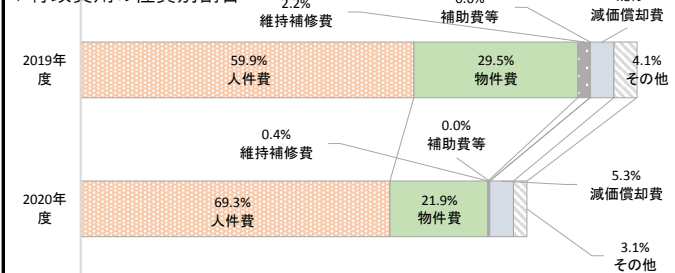
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			1,699	1,837	138	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金		0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債		0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		51,802	48,625	△ 3,177	固定負債	賞与引当金		1,699	1,837	138	
		土地		0	0	0		その他の流動負債		0	0	0	
		建物(取得価額)		111,462	111,462	0		固定負債		22,595	17,183	△ 5,412	
		建物減価償却累計額		△ 59,660	△ 62,837	△ 3,177		地方債		0	0	0	
		工作物(取得価額)		0	0	0		退職手当引当金		22,595	17,183	△ 5,412	
		工作物減価償却累計額		0	0	0		その他の固定負債		0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	繰延収益		0	0	0		
		有形固定資産		0	0	0	長期前受金		0	0	0		
		土地		0	0	0	負債の部合計		24,294	19,020	△ 5,274		
		工作物(取得価額)		0	0	0	純資産			100,322	100,588	266	
		工作物減価償却累計額		0	0	0							
		無形固定資産		0	0	0							
		建設仮勘定		0	0	0							
		その他の固定資産		72,814	70,983	△ 1,831	純資産の部合計		100,322	100,588	266		
		資産の部合計		124,616	119,608	△ 5,008	負債及び純資産の部合計		124,616	119,608	△ 5,008		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	木曽山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 70,983千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	減価償却により3,177千円減少。	主な増減理由	購入1,681千円、寄贈743千円、除籍△4,276千円、特別収入21千円により、1,831千円減少。	主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



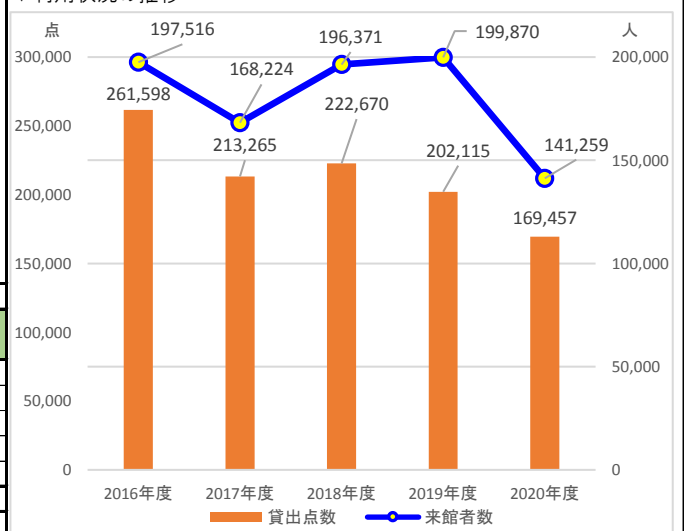
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
内訳							
図書館管理事務	0.1					0.1	0.1
各館庶務事務	0.5			0.1		0.6	0.3
企画運営事務	1.0			0.1		1.1	1.0
資料貸出・閲覧業務	0.4		1.0	5.1	0.9	7.4	7.3
利用援助・普及事業				0.6		0.6	1.6
2020年度 特定事業 合計	2.0	0.0	1.0	5.9	0.9	9.8	10.3
2019年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	5.0	1.3	10.3	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に基づき、会計年度任用職員制度導入に合わせて人員体制の見直しを行い、常勤職員が1人減少しました。
- ◆特集コーナーでは、「図鑑・辞典・事典」、「蕎麦 ああ、うまい」、「すごもりをたのしむ」、「ジェンダーについて考える」、「終戦」、「クリスマス・お正月」、「小動物」、「コロナ太り、コロナやつれ」など全部で42回の特集を実施しました。
- ◆自動ドアの一部修繕と非常照明の修繕を行い、施設の維持管理及び利用環境の改善を行いました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や各種講座の延期や中止、参加人数や閲覧席の削減等により、2019年度より貸出点数は32,658点減少し、来館者数も58,611人減少しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーテーションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。
- ◆七国山小学校でのリモート授業では、2学年全クラス児童89人、教員7人、保護者6人の参加がありました。
- ◆七国山小学校でのリモートおはなし会では、全学年児童627人、教員48人の参加がありました。
- ◆「本のおたのしみぶくろ」では、8月は13日間で22袋66冊の貸出があり、3月は15日間で22袋66冊の貸出しがありました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆地域の方々から愛される何でも訪れたくなる図書館づくりを進める必要があります。
- ◆新しい生活様式にあわせた図書館サービスに引き続き取り組む必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆来館者数の目標達成に向けて、高齢者や子ども向けのイベントを効果的にを行います。 ◆リモートおはなし会など、新たな図書館サービスに引き続き取り組みます。 ◆利用者に快適に利用していただけるように施設を安全・清潔に保ちます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。

2020年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立堺図書館		
	蔵書数	70,688点	68,053点	68,423点	建設年月日	1983年9月25日		
	予約・リクエスト件数	24,511件	26,890件	29,850件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	38,397人	35,937人	31,907人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆移動図書館の貸出点数は、利用者のライフスタイルの多様化や変化により伸び悩んでいます。利用状況を分析し、対応策を検討する必要があります。
 ◆堺地域の活動拠点の図書館として、住民により密着した貢献ができる取組が必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

- ◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
 ◆堺図書館とさるびあ図書館の移動図書館3台の巡回運行の見直しを行い、幼稚園、保育園やイベント等へ展開して利用促進を図ります。
 ◆月3回のおはなし会の他、堺地域子育て相談センターやこうさぎ保育園の園児向けにおはなし会を行って、子ども読書活動を推進します。
 ◆毎月、貸出数の少ない図書資料の閲覧および貸出を促進するため、テーマに沿った特集本コーナーを設置します。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	252,000	255,000	257,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館1台の貸出点数を含む)
		実績	175,079	164,318	144,994		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	73,000	74,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	73,589	67,791	49,028		(2023年度)	

- 成果の説明
 ◆移動図書館1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。
 ◆移動図書館が全国誌に掲載されたことを受け、図書館内で移動図書館の特設コーナーを作りPRを行い、移動図書館の貸出冊数は2019年度より773冊増加しました。
 ◆特集コーナーを合計37回設置しました。また、地域団体による写真、絵画等の展示会を行いました。
 ◆近隣の小中学校にひとことPOPコンテストのPRを行い、23作品の応募がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	55,432	56,014	57,299	1,285	地方税	0	0	0	0
物件費	15,819	22,566	13,231	△ 9,335	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	3,033	10,181	3,440	△ 6,741	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	172	15	453	438	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	10	10	10	0	その他	110	89	34	△ 55
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	110	89	34	△ 55
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 83,421	△ 83,261	△ 74,940	8,321
賞与・退職手当引当金繰入額	12,098	4,745	3,981	△ 764	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	83,531	83,350	74,974	△ 8,376	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 83,421	△ 83,261	△ 74,940	8,321
特別費用 (g)	6,109	5,406	1,979	△ 3,427	特別収入 (f)	78	22	0	△ 22
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,031	△ 5,384	△ 1,979	3,405	当期収支差額 (e)+(h)	△ 89,452	△ 88,645	△ 76,919	11,726

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 31,010千円 会計年度業務職員 23,784千円 会計年度補助職員 2,471千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,073千円 堺市民センター物件費 3,604千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円など
主な増減理由	職員構成の変化により1,285千円増加。	主な増減理由	図書館システム更改完了に伴うシステム導入委託料などの減少により9,335千円減少。
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	68,423	1,096	△ 129	人件費は増加しましたが、物件費が減少したことにより、単位あたりコストが129円減少しました。
		2019	68,053	1,225	43	
		2018	70,688	1,182		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	430	174,358	△ 19,479	人件費は増加しましたが、物件費が減少したことにより、単位あたりコストが19,479円減少しました。
		2019	430	193,837	△ 421	
		2018	430	194,258		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	309,810	6,719	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が33日(△12.0%)減少したため、単位あたりコストが6,719円(2.2%)増加しました。
		2019	275	303,091	25,579	
		2018	301	277,512		

④貸借対照表

(単位:千円)

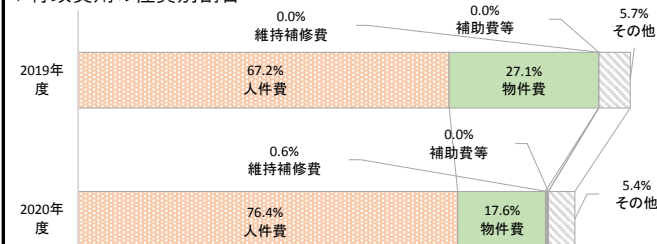
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			2,286	2,908	622	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	賞与引当金			2,286	2,908	622
		土地			0	0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債			30,400	29,926	△ 474
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			30,400	29,926	△ 474
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	繰延収益			0	0	0
		有形固定資産			0	0	0	長期前受金			0	0	0
		土地			0	0	0	負債の部合計			32,686	32,834	148
		工作物(取得価額)			0	0	0	純資産			92,973	93,179	206
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
建設仮勘定			0	0	0								
その他の固定資産			125,659	126,013	354	純資産の部合計			92,973	93,179	206		
資産の部合計			125,659	126,013	354	負債及び純資産の部合計			125,659	126,013	354		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 126,013千円	決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	購入1,635千円、寄贈698千円、除籍△1,964千円、特別費用△15千円により、図書資産額が354千円増加。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



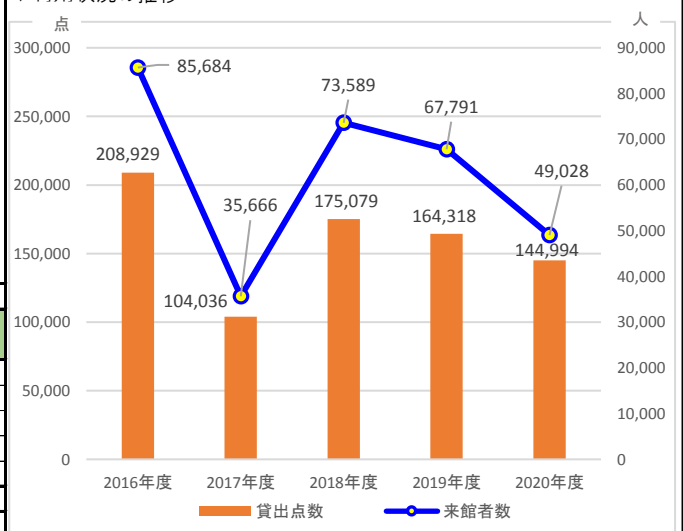
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
内訳							
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.3
各館庶務事務	0.9			0.1		1.0	0.8
企画運営事務	0.6			0.2		0.8	0.7
資料貸出・閲覧業務	2.2			6.4	1.3	9.9	9.5
利用援助・普及事業	0.1			0.5		0.6	0.5
2020年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	7.3	1.3	12.6	11.8
2019年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	7.8	0.0	11.8	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆特集コーナー等により、開館日1日あたりの貸出点数は、2019年度の598冊に比べ2020年度は599冊と1冊増加し、貸出者1人あたり貸出冊数は4.5冊と図書館全体で最も多く、全図書館平均の3.3冊を上回りました。
- ◆移動図書館の巡回場所の見直し等により、2020年度の貸出冊数は2019年度の26,598冊から773冊増加して27,371冊となりました。
- ◆地域で活動している4つの団体と個人2人と連携し、展示会を6回行いました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や堺市民センターまつりの中止、閲覧席の削減等により、貸出点数が19,324点減少し、来館者数も18,763人減少しました。また、開館日1日あたりの来館者数は、2019年度の247人から2020年度は203人と44人減少しました。
- ◆特集コーナーを増設し「新型コロナ対策」や堺第一高齢者支援センターと連携した「D-books」などの特集を行い、子ども向けには本の「学習応援福袋」や「クリスマスふくぶくろ」の貸出、子どもが知りたいテーマに合った本を探す選書サービスを行いました。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、パーティションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆移動図書館1巡回あたりの貸出冊数は若干の増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症が拡大している社会情勢のなか、外出自粛の影響があるのか等、今後の貸出冊数の推移を分析していく必要があります。
- ◆近接する八王子、相模原を含む堺地域にある活動拠点の図書館として、住民に密着した貢献ができる取組が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆移動図書館巡回場所や予約受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。 ◆図書資料の閲覧および貸出を促進するため、テーマに沿った特集コーナーを設置します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2020年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館		
	蔵書数	102,484点	106,282点	108,955点	建設年月日	2012年8月31日		
	予約・リクエスト件数	104,759件	101,980件	99,026件		2018年度	2019年度	2020年度
	貸出者数	170,687人	153,175人	125,644人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◇「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆指定管理者制度導入に向けて、円滑な準備を行う必要があります。
 ◆鶴川地域の中規模図書館であり、駅前図書館の立地を活かし、地域住民のニーズと通勤・通学者の動向を探りながら、より魅力的な蔵書構成にすることが必要です。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。特に2022年度の指定管理者制度導入に向けた準備を行います。 ◆他機関と連携を深め、認知症コーナーを常設したり、特殊詐欺防止特集を行うなど、鶴川地域の課題解決に寄与します。 ◆複合施設内の町田市文化・国際交流財団や鶴川地区協議会、地域で活動している団体と連携して、プラネタリウムイベントや鶴川deハロウィンイベントに協力し、相乗効果で、来館者を増やします。 ◆ポプラホール鶴川で活動を行っている鶴川地区協議会と連携して、3水スマイルラウンジのまなびのひろばに合わせた特集を毎月行います。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	547,000	552,000	558,000	558,000	558,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	519,784	463,064	381,263		(2023年度)	
来館者数	人	目標	-	335,000	336,000	336,000	336,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	334,522	307,459	218,610		(2023年度)	

成果の説明 ◆自由民権資料館と香山園、図書館のコラボ特集を行い、市民が各施設を回遊するような試みを行いました。また、町田警察署と連携し、チラシを配布するなど特殊詐欺防止特集を行いました。
 ◆鶴川地域図書館として鶴川地区協議会に加入しました。鶴川地区協議会と連携した「初めてのスマホ活用術」「三輪の里山を知ろう」などの特集コーナーを毎月設置し、図書館独自の特集と合わせて53回の特集を実施しました。
 ◆中央図書館と忠生図書館とともに、英語多読コーナーの運用を開始しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
	A	B	B-A			A	B	B-A	
人件費	70,128	70,854	78,389	7,535	地方税	0	0	0	0
物件費	47,884	61,340	45,070	△ 16,270	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	21,929	36,223	23,499	△ 12,724	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	567	210	246	36	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	10	10	10	0	その他	263	314	179	△ 135
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	263	314	179	△ 135
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 122,164	△ 136,443	△ 130,786	5,657
賞与・退職手当引当金繰入額	3,838	4,343	7,250	2,907	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	122,427	136,757	130,965	△ 5,792	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 122,164	△ 136,443	△ 130,786	5,657
特別費用 (g)	863	772	1,209	437	特別収入 (f)	0	118	5	△ 113
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 863	△ 654	△ 1,204	△ 550	当期収支差額 (e)+(h)	△ 123,027	△ 137,097	△ 131,990	5,107

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 33,334千円 再任用職員 4,870千円 会計年度任用職員 40,149千円など	決算額の主な内訳	総合管理業務委託料 22,023千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,822千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円など
主な増減理由	職員構成の変化により7,535千円増加。	主な増減理由	図書館システム更新完了に伴うシステム導入委託料などの減少により16,270千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	ダウンライト照明器具修繕 131千円 男性トイレ及びキッチン水栓修理 88千円 男性トイレ詰まり修繕 27千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	照明器具故障の修繕などにより36千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2020	108,955	1,202	△ 85	物件費が減少したことにより、単位あたりコストが85円減少しました。
		2019	106,282	1,287	92	
		2018	102,484	1,195		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2020	1,344	97,444	△ 4,310	物件費が減少したことにより、単位あたりコストが4,310円減少しました。
		2019	1,344	101,754	10,662	
		2018	1,344	91,092		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	541,178	43,880	物件費が減少した一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館などにより開館日数が33日(△12.0%)減少したため、単位あたりコストが43,880円(8.8%)増加しました。
		2019	275	497,298	89,208	
		2018	300	408,090		

④貸借対照表

(単位:千円)

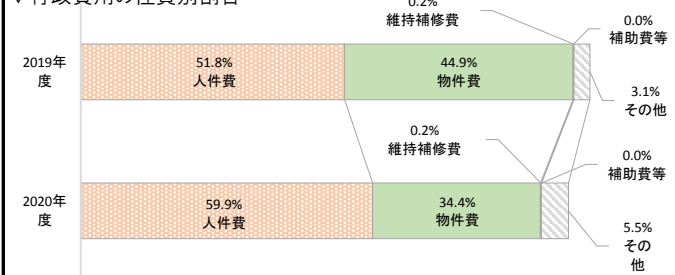
勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2019年度末 A	2020年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				2,255	3,407	1,152	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	固定負債	賞与引当金			2,255	3,407	1,152
		土地			0	0	0		その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0					29,989	32,170	2,181
		建物減価償却累計額			0	0	0		地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0		退職手当引当金			29,989	32,170	2,181
		工作物減価償却累計額			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	繰延収益			0	0	0	
		有形固定資産			0	0	0	長期前受金			0	0	0	
		土地			0	0	0	負債の部合計			32,244	35,577	3,333	
		工作物(取得価額)			0	0	0	純資産				113,139	113,229	90
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
		無形固定資産			0	0	0							
	建設仮勘定			0	0	0								
	その他の固定資産			145,383	148,806	3,423	純資産の部合計			113,139	113,229	90		
	資産の部合計				145,383	148,806	3,423	負債及び純資産の部合計				145,383	148,806	3,423

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 148,806千円	決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	購入3,481千円、寄贈1,146千円、除籍△1,209千円、特別収入5千円により、図書資産額が3,423千円増加。	主な増減理由		主な増減理由	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
内訳							
図書館管理事務	0.4			0.3		0.7	0.9
各館庶務事務	0.6			0.2		0.8	0.7
企画運営事務	1.1			0.3		1.4	0.8
資料貸出・閲覧業務	1.6	0.9		9.3	2.8	14.6	13.5
利用援助・普及事業	0.3	0.1		0.6		1.0	1.3
2020年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	10.7	2.8	18.5	17.2
2019年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	11.0	1.2	17.2	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

- ◆指定管理者制度導入に向けて、利用者アンケートを行い、業務仕様書と募集要項を作成しました。
- ◆8月に子ども向けクイズラリー「よんでさがしてピンゴ!」を実施し、957人の参加がありました。2019年度と比較して参加者が101人増加し、夏休みのイベントとして定着してきました。
- ◆英語多読コーナーの運用を開始して、2020年度は外国語の絵本・児童書を247冊購入し、その蔵書数は525冊になりました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や各種講座の延期や中止、参加人数や閲覧席の削減等により、2019年度と比較して貸出点数は81,801点減少し、来館者数も88,849人減少しました。 ◆図書館内でのおはなし会やポプリホール全館を使ったプラネタリウムイベント等が中止になりましたが、3水スマイルラウンジで行う「まなびのひろば」、「きらきらタイム」や親子で楽しむイベント、三輪子どもクラブ「MIWA〜GO」での絵本教室等に出向き、図書の紹介をしました。 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、バーテーションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約資料のカバーの消毒、予約照会機やセルフ貸出機等の定期的な清掃、消毒などの対応を行いました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆指定管理者制度導入によって運営者が変わっても、サービス水準を低下させないよう引継ぎ等を円滑に行う必要があります。
- ◆鶴川地域の中規模図書館であり、駅前図書館の立地を活かし、地域住民のニーズと通勤・通学者の動向を探りながら、より魅力的な蔵書構成にする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2021年度中に指定管理者を選定し、2022年4月から指定管理者による図書館運営がスムーズに移行できるように進めます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

2020年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
					事業類型 d:事業型(施設運営・受益者負担)

1.組織概要

組織の使命	町田ゆかりの文学者の著作、原稿等の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講演会などを通して市民に発信し、文学に関する調査研究や知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくります。				取 他 り 自 組 治 み 体 等 の	◆町田市民文学館は、多摩26市で唯一の総合文学館として、文学・ことば・文字をテーマにした特色ある事業を実施しています。◆吉村昭記念文学館(荒川区)では、常設展示をYouTubeで紹介しています。◆武蔵野ふるさと歴史館(武蔵野市)では、武蔵野地域の歴史や文化について、TwitterやFacebookを通じて、21件の紹介記事を掲載しています。				
所管事務	◆文学資料の収集、保存及び展示に関すること ◆文学館資料及び図書館資料の館内閲覧及び館外貸出しに関すること ◆講演会等の開催に関すること ◆文学に関する広報活動に関すること ◆文学に関する出版物等の作成及び販売に関すること ◆文学資料の寄贈及び寄託に関すること ◆文学館施設・設備の利用及び維持管理に関すること									
	根拠法令等 町田市民文学館条例、町田市民文学館条例施行規則									
基本情報		2018年度	2019年度	2020年度	施設の名称	町田市民文学館ことばらんど				
	利用料金収入 (単位:千円)	4,018	2,639	1,194	建設年月日	2006年6月1日				
	受益者負担比率	2.9%	1.9%	0.9%		2018年度	2019年度	2020年度		
	来館者数 (単位:人)	61,713	60,602	30,364	有形固定資産減価償却率	24.1%	26.1%	28.1%		

2.2019年度末の総括

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会事業や学習事業を従来と同じ手法で実施することが難しくなっています。インターネットやTwitterを活用して、市民が家にいながら町田の文学に親しむ機会を提供するなど、事業の実施方法を見直す必要があります。
 ◇施設の運営について、複数施設の連携を模索するとともに、単独館での効率化についても検討する必要があります。
 ◇建設から15年を迎えて、空調設備の改修や照明をLED化するなど、規模の大きな修繕が必要となっています。

②課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

◆Twitterで町田が登場する文学の紹介「#おうちで文学」を発信したり、展覧会の動画を配信するなど、新たにインターネットを活用した事業を実施します。
 ◆新型コロナの影響により実施できなくなった業務に替わり、文学館の収蔵資料の整理に注力し、市民や研究者に向けてそれらを公開します。
 ◇施設運営について、関連部署と情報共有を図るとともに、直営での効率化についても検討を進め、具体的な施設の管理運営手法を決定します。
 ◇施設設備の日常の安全点検を行いながら、関係部署と連携し、空調設備等の修繕計画策定に取り組みます。

3.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	25,000	24,000	16,000	19,000	19,000 (2021)	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	27,066	27,690	8,530			
Twitterのフォロワー数(累計)	件	目標	300	500	900	1,000	1,100 (2022)	文学館が発信している公式Twitterのフォロワー数
		実績	514	828	974			
成果の説明	◆開催を予定していた有料展を含む3つの企画展を中止し、収蔵品を中心とした「20×20原稿用紙&ニコニコ絵本原画展」を新たに実施しました。◆自宅でも展覧会を楽しめるように紹介動画を作成し、YouTubeで配信し、4,941回再生されました。◆町田市公式Twitterで町田が登場する文学作品の紹介「#おうちで文学」を発信し、45作品紹介しました。◆2017年度から開始したTwitterのフォロワー数が累計で974件となり、着実にフォロワー数が伸びています。◆2021年度から実施する「ことばらんどショートショートコンクール」に先駆け、ショートショートの作り方動画を制作し、市内中学生を対象にショートショートの作り方講座を行いました。◆収蔵資料の整理を行い、整理が終了した資料の公開記念イベントを2回実施しました。							

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額	勘定科目	2018年度	2019年度	2020年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	77,308	76,528	75,290	△ 1,238	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	3,065	2,435	1,089	△ 1,346	保険料	0	0	0	0
物件費	37,532	40,978	29,638	△ 11,340	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	17,261	20,243	14,376	△ 5,867	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	2,446	219	1,506	1,287	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	4,018	2,639	1,194	△ 1,445
補助費等	2,125	2,032	2,149	117	その他	1,032	684	187	△ 497
減価償却費	13,423	13,423	13,423	0	行政収入 小計(a)	5,050	3,323	1,381	△ 1,942
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 135,387	△ 138,481	△ 129,413	9,068
賞与・退職手当引当金繰入額	7,603	8,624	8,788	164	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	140,437	141,804	130,794	△ 11,010	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 135,387	△ 138,481	△ 129,413	9,068
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 135,387	△ 138,481	△ 129,413	9,068

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	常勤職員 53,343千円 会計年度任用職員 21,716千円 運営協議会委員報酬 231千円	決算額の主な内訳	空気調和機(AHU-2)電極式蒸気加湿器交換修繕 550千円 空気調和機(AHU-4)Vベルト及びプーリー交換修繕 341千円 空調設備CH-1チラーユニット部品交換修繕 220千円 非常照明バッテリー交換修繕 156千円 など
主な増減理由	時間外勤務手当が減少したこと等により1,238千円減少。	主な増減理由	空調設備の修繕が多かったこと等により1,287千円増加。
勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	光熱水費 7,134千円 作成委託料 3,749千円 施設等管理委託料 3,285千円 機器等保守点検委託料 2,854千円 など	決算額の主な内訳	文学館施設使用料 1,162千円 附属設備使用料 32千円
主な増減理由	光熱水費、作成委託料、施設等管理委託料、システム導入委託料の減少等により11,340千円減少。	主な増減理由	臨時休館・夜間休館による会議室利用者の減少及び有料展覧会の中止により1,445千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
町田市民文学館来館者数1人あたりコスト	人	2020	30,364	4,308	1,968	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館58日(△19%)、夜間休館69日(△23%)により来館者数が減少したため、来館者1人あたりのコストは1,968円(84%)増加し、4,308円となりました。
		2019	60,602	2,340	64	
		2018	61,713	2,276		
開館日数1日あたりコスト	日	2020	242	540,471	35,830	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館58日(△19%)、夜間休館69日(△23%)のため、開館日数1日あたりのコストは35,830円(7%)増加し、540,471円となりました。
		2019	281	504,641	41,153	
		2018	303	463,488		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2019年度末				2019年度末			
A				A			
2020年度末				2020年度末			
B				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債		3,739	4,335
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	717,561	704,138	△ 13,423	賞与引当金	3,739	4,335
	土地	220,902	220,902	0	その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	671,161	671,161	0	固定負債	49,727	51,517
	建物減価償却累計額	△ 174,502	△ 187,925	△ 13,423	地方債	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	49,727	51,517
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0
	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計	53,466	55,852
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	664,095	648,286
	工作物減価償却累計額	0	0	0			
インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計	664,095	648,286
	建設仮勘定	0	0	0			
	その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	717,561	704,138
	資産の部合計	717,561	704,138	△ 13,423			

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 220,902千円	決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 671,161千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	増減なし	主な増減理由	減価償却により、13,423千円減少。	主な増減理由	

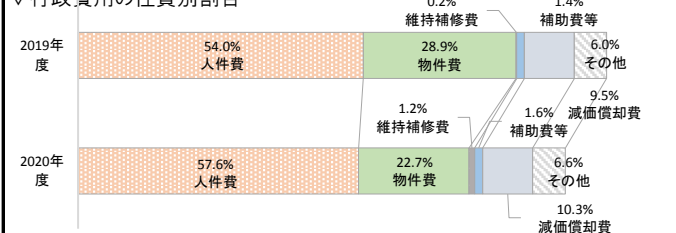
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	1,381	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	114,986	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 113,605	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 113,605
				一般財源充当調整額	113,605

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



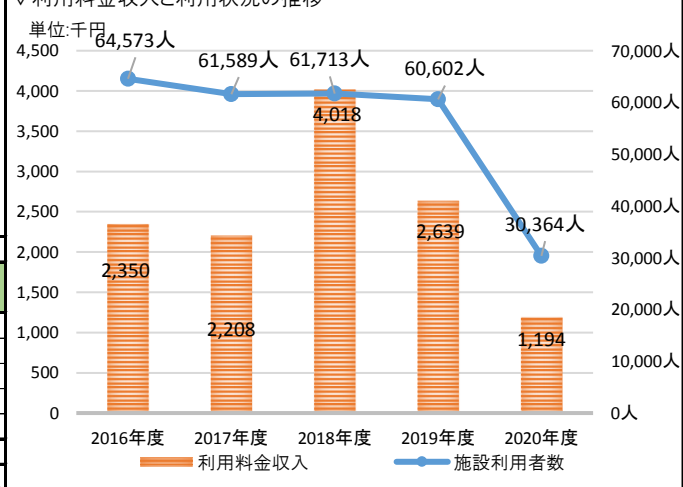
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2020 合計	2019 合計
管理事務	3.3			0.3		3.6	3.0
管理事務(施設等貸出)	0.1					0.1	0.1
展示事業	1.6			1.1	0.8	3.5	4.4
学習事業	0.5			0.8	0.2	1.5	1.8
資料収集事業	0.5			3.5	0.5	4.5	4.7
2020年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	5.7	1.5	13.2	14.0
2019年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	5.9	2.1	14.0	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①成果および財務の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業の中止・変更や規模の縮小を行い、施設の貸出を中止したこと等により、行政費用は2019年度に比べ11,010千円減少しましたが、展覧会観覧者数は8,530人、来館者数は30,364人にとどまりました。◆維持補修費は、2019年度に比べ1.0ポイント増加しました。これは、主に空調設備の老朽化に伴う修繕を行ったことによるものです。◆有料展中止に伴い、展示室受付・監視のための会計年度任用職員を任用しなかったことにより、事業に関わる人員は、2019年度に比べ0.8人減少しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館したこと等により、2019年度に比べ来館者数は30,238人(△49.9%)減少し、光熱水費は1,321千円減少しました。また、施設の貸出や有料展の中止等により、施設貸出・管理に伴う委託料が1,712千円減少し、行政収入が2019年度に比べ1,942千円減少しました。◆新型コロナウイルス感染症の影響により施設利用者が減少したため、施設利用率は38.1%となりました。◆Twitterで町田市が登場する文学作品の紹介「#おうちで文学」の発信や、自宅でも展覧会を楽しめるように紹介動画を作成しYouTubeで配信する等SNSの活用に取り組みました。

③2020年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆新型コロナウイルス感染症の影響により減少した来館者数を回復させるために、魅力的な事業を展開する必要があります。◆文学館をより多くの人に知ってもらい、特に若い世代の利用につながるよう、SNS等による情報発信を積極的に行う必要があります。◆中高生から20歳代の若い世代を対象とした事業の充実を図る必要があります。◆人と人とのつながりが重要視されている中、様々な地域や団体と連携しながら事業を進める必要があります。◆開館後15年が経過し、空調設備の改修等大規模な修繕をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆春の「ZARD/坂井泉水 心に響くことば」展での詩やことばに焦点を当てた展示をはじめ、多くの市民に関心を持ってもらえるよう文学館ならではの企画展を実施します。◆青少年に文学と触れ合うきっかけを提供する、小・中・高校生を対象にした「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。	◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、Twitter、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。

